

路線・地域の概要

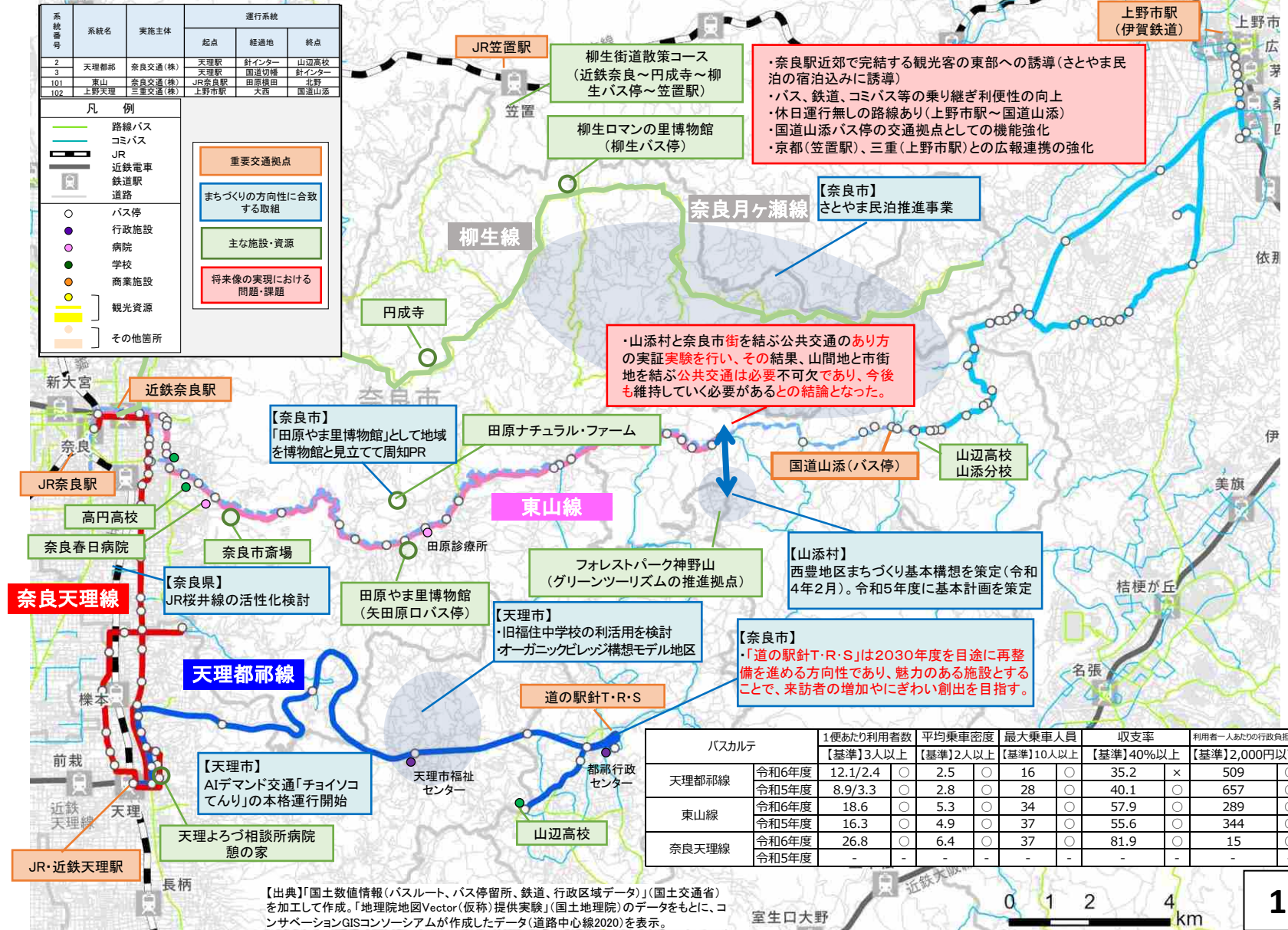
- 関係市町村
 - 奈良市・天理市・山添村
- 主な公共交通機関
 - ・奈良交道路線バス〔対象路線〕:天理都祁線、東山線、奈良天理線
 - ・コミュニティバス:奈良市都祁地域コミュニティバス、山添村東豊地域コミュニティバス、奈良方面村民送迎バス、山添伊賀コミュニティバス
 - ・デマンド交通:チョイソコてんり(天理市)
 - ・その他の輸送サービス:やまぞえ福祉タクシー(有償運送事業)
- 主な利用データ
 - ・天理都祁線:診断指標達成(R5年度)、平均乗車密度は横ばい傾向、行政負担は増加
 - ・東山線:診断指標達成(R5年度)、利用者数は改善傾向、行政負担は増加
 - ・奈良天理線:診断指標達成(R5年度)(※R6年度から追加)

- 関係情報
 - ・対象路線が走る大和高原北部地域では、地域全体を博物館としてPRする「田原やま里博物館」、「さとやま民泊推進事業」、「山添村グリーンツーリズム」等の取組が行われている
 - ・〔コミバスとの接続・連携、利用促進策など 現在実施しているもの〕
 - 山添奈良→近鉄・JR奈良駅に接続、奈良都祁線代替バス→奈良交通下水間バス停に接続、波多野東豊地域→名張駅に接続、山添伊賀→伊賀鉄道上野市駅に接続
 - ・近隣を走る奈良柳生線(奈良駅～柳生)は、柳生氏の城下町として歴史・文化資産が豊富
 - ・フォレストパークは、年間約4万人の観光客が訪れている
 - ・山添村西豊地区まちづくり基本構想を策定(R4.2月)し、令和5年度に基本計画を策定し、個別の事業を着手・実行していく。現在は個別協定を随時締結中。
 - ・県では奈良市のコミュニティバスにおけるクロスセクター効果の算定を実施
- 令和9年度に目標とすべき状況(主な評価指標)
 - ・対象路線につき、診断指標5項目の達成

本エリアにおける公共交通の位置付けと課題

- 【位置付け】
 - 天理都祁線、東山線は、田原地区・都祁地域・山添村住民の買い物、通院等の移動手段となっている
 - 奈良天理線は、沿線住民の通勤・通学等の移動手段となっている
 - 休日も運行の天理都祁線、東山線及び奈良柳生線は、春秋のシーズンを中心に、観光・行楽客利用も一定の利用がみられる
- 【課題】
 - 自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある
 - 自家用車を使えない高齢者層を中心に、住民の移動手段確保をどのように確保するか
 - 主要施設への移動に、いかに公共交通を活用してもらうか
 - グリーンツーリズムやさとやま民泊推進事業等の推進に、どのように公共交通を活用するか

まちづくりの方向性(イメージ図)



取組の方向性

- 住民向け—
 - 【目標】通院・買い物等、必要な用事を車がなくても便利に
 - 住民のニーズ把握とそのニーズに応じた交通モードの導入
 - 通院・通学者の公共交通利用促進に向けた取組の実施
- 観光客向け—
 - 【目標】公共交通を利用した観光のための取組実施
 - 公共交通の利用に繋がる観光イベントの企画・発信を強化
 - 滞在型観光を視野にいた公共交通を利用した観光モデルルートの立案・周知

: 重点取組事項

住民向けの取組

観光客向けの取組

取組名	利用ニーズに応じた山間地と市街地を結ぶ公共交通の実証・維持確保
取組内容	・奈良方面村民送迎バス及び東山線運賃補助の実証実験を行い、その結果奈良方面村民送迎バスの継続運行を決定。
実施主体・協力主体	山添村、奈良県、奈良交通
実施効果	利用者数の増加、利便性の向上
実施期間	R5.4～

取組名	奈良市東部の地域交通ネットワークの再編
取組内容	・持続可能な交通体系を構築するため、スクールバスなどの地域の既存の移動手段の活用も含めて、路線バスから代替交通手段への移行も視野に入れた地域交通ネットワークの再編を行う
実施主体・協力主体	奈良市、奈良県
実施効果	移動ニーズに応じた地域交通ネットワークの実現
実施期間	R5.4～

取組名	公共交通を利用した観光ゴールデンルートの組成・周知・定着
取組内容	・公共交通を利用した観光ゴールデンルートを組成・周知し、新たな公共交通利用者を積み増すと共に、利用者アンケート等の結果をフィードバックさせ、質の向上と定着を図る
実施主体・協力主体	奈良市、天理市、山添村、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	地域の実態に即したモビリティマネジメントの実施
取組内容	・公共交通の利用イメージが湧いていない沿線住民に対し、公共交通の存在を認知してもらい、具体的利用イメージを明確に持つためのモビリティマネジメントを、地域の移動実態に即して実施
実施主体・協力主体	奈良市、天理市、山添村、奈良県、交通事業者
実施効果	利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	移動ニーズに応じた持続可能な公共交通の確保
取組内容	・地域公共交通計画にある計画記載事項を実施
実施主体・協力主体	天理市、奈良県
実施効果	移動ニーズに応じた持続可能な公共交通の確保
実施期間	R6.4～

取組名	通学等移動ニーズに応じた公共交通モードの提供
取組内容	・通学利用者や地域住民の移動ニーズを調査し、ニーズに応じた利用促進策や公共交通モードを再編について検討する
実施主体・協力主体	奈良市、天理市、奈良県
実施効果	公共交通の利便性向上
実施期間	R7.4～

取組名	拠点となる施設と連携したインセンティブ施策や施設自体の利活用の実施
取組内容	・地域の拠点として機能する施設と連携したインセンティブ施策や、施設を利活用したイベント等の実施
実施主体・協力主体	奈良市、天理市、山添村、奈良県、交通事業者
実施効果	利用者数の増加、利便性の向上
実施期間	R5.4～

取組名	自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の利用促進
取組内容	・令和5年3月より販売を開始している自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の普及のためのPRを実施 ・コミュニティバスに活用する取組を検討・実施
実施主体・協力主体	奈良交通
実施効果	利用者数の増加
実施期間	R5.3～

○東部Aにおける重点取組事項について

○利用ニーズに応じた山間地と市街地を結ぶ公共交通の実証・維持確保

重点取組事項のねらい	山添村と奈良市中心地を結ぶ公共交通のよりよい形がありうるかの実証・結果反映を通じ、山間地と市街地を結ぶ不可欠な公共交通をできる限り長く維持する
実施効果	山添村と奈良市中心地を結ぶ公共交通の利用者数の増加
活用する支援制度	公共交通基本計画推進支援事業

		1年目(R5)	2年目(R6)	3年目(R7)～
実施内容		<ul style="list-style-type: none"> 利用ニーズに応じた、奈良市街地方面への山添村民送迎バスの実証実験(奈良交通東山線のバス運賃補助事業含む) 	<ul style="list-style-type: none"> 実証実験結果を踏まえた、利便性を向上させるような東山線再編(一部便の路線延長・ダイヤ改正・運行形態変更 等)の検討 再編後の費用負担按分の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の利便性を向上させるような東山線再編(一部便の路線延長・ダイヤ改正・運行形態変更 等)の実施
役割分担 (※1:実施主体)	奈良県	<ul style="list-style-type: none"> 事業実施や結果分析に関する支援 	<ul style="list-style-type: none"> 東山線再編検討に関する関係者間調整・支援 	<ul style="list-style-type: none"> 東山線再編実施に関する関係者間調整・支援
	山添村※1	<ul style="list-style-type: none"> 奈良方面村民送迎バスの運行・使い方具体例提示/周知 利用者アンケート調査の実施・結果分析 東山線の使い方具体例提示/周知 	<ul style="list-style-type: none"> 実証実験の結果を踏まえ奈良方面村民送迎バスを継続運行 東山線の利用促進に向け、村外の方に神野山等のイベント情報の周知 	<ul style="list-style-type: none"> 実証実験の結果を踏まえ奈良方面村民送迎バスを継続運行 東山線の利用促進に向け、村外の方に神野山等のイベント情報の周知
	交通事業者 (バス事業者)	<ul style="list-style-type: none"> 東山線利用データの整理・分析 東山線の使い方具体例提示/周知 	<ul style="list-style-type: none"> 実証実験結果を踏まえた、東山線再編案の検討 東山線の使い方具体例提示/周知 	<ul style="list-style-type: none"> 東山線再編案の検討 東山線の使い方具体例提示/周知
	山添村、奈良市、 天理市、奈良県	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通を利用した日帰り観光ゴールデンルートの組成 	<ul style="list-style-type: none"> 日帰り観光ゴールデンルートの周知や集客 日帰り観光客へのアンケート調査実施・結果分析 	<ul style="list-style-type: none"> 日帰り観光ゴールデンルートの改善 日帰り観光ゴールデンルートの周知や集客 日帰り観光客へのアンケート調査実施・結果分析 東山線再編案の検討 東山線の使い方具体例提示/周知
関係する補助		<ul style="list-style-type: none"> 公共交通基本計画推進支援事業 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通基本計画推進支援事業 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通基本計画推進支援事業

路線・地域の概要

- **関係市町村**
天理市、桜井市、三宅町、田原本町
- **主な公共交通機関**
 - ・JR万葉まほろば線桜井駅～天理駅(6駅)
 - ・近鉄天理線天理駅、大阪線
 - ・奈良交通路線バス:天理桜井線
 - ・コミュニティバス:桜井市咲～くるライン
 - ・デマンド交通:チョイソコてんり、田原本町
- **主な利用データ※**
 - ・JR天理駅 乗車人員 **2,298**人/日(R5)
 - ・JR桜井駅 乗車人員 **1,822**人/日(R5)
 - ・近鉄天理駅 乗車人員 **8,173**人/日(R5)
 - ・近鉄桜井駅 乗車人員 **13,747**人/日(R5)
 - ・奈良交通天理桜井線:5診断指標のうち収支率が未達成(H26～)

- **関係情報**
 - ・天理桜井線は、診断指標未達成の状況が平成26年以来続いているため、同路線とJR万葉まほろば線が平行していることも踏まえ、抜本的な見直しに着手
 - ・沿線地域は、多くの社寺・古墳等が所在するハイキングルート「山の辺の道」
 - ・令和4年3月、なら歴史芸術文化村が開村
 - ・天理駅からなら歴史芸術文化村までシャトルバスを運行
 - ・令和4年度より、「山の辺の道」のクリーンキャンペーンと連携したデジタルスタンプラリーを開催し、公共交通利用を促進
 - ・令和6年4月、「チョイソコてんり」の運行開始
 - ・**天理・柳本・三輪駅にシェアサイクルポートを設置(R6～)**

※近鉄駅の場合は乗降人員を示している

- **令和9年度に目標とすべき状況(主な評価指標)**
 - ・天理桜井線:診断指標5項目の達成

本エリアにおける公共交通の位置付けと課題

- 【位置付け】
 - 市をまたぐ利用は少ないことがわかっている(ICOCAデータによるOD調査)
 - 鉄道とバスが並行し運行している
- 【課題】
 - 自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある
 - 鉄道とバス、また新たな輸送モード間でどのように最適な役割分担を実現するか
 - 駅・バス停からの二次交通の充実・最適化に向けてどのような仕掛けを行うか
 - 周辺の観光資源の来訪者増に向けどのような仕掛けを行うか

取組の方向性

ー鉄道・バス等各モード間の最適な役割分担ー

- 鉄道=幹線、路線バス・コミュニティバス=フィーダーと位置付けた見直しを実施
- 公共交通の利用に繋がる乗り継ぎ改善等の取組

ー住民向けー

【目標】通院・買い物等、必要な用事を車がなくても便利に

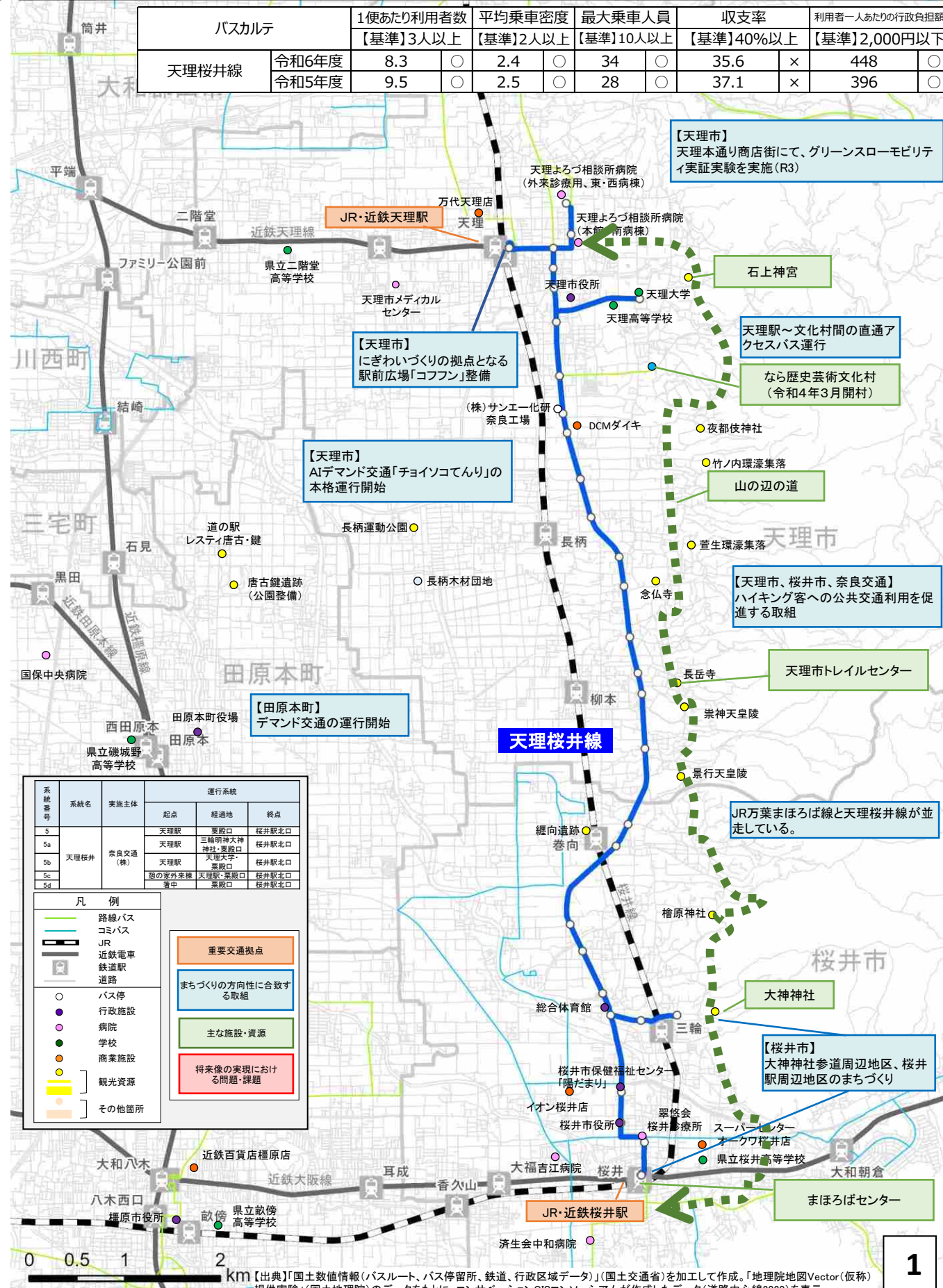
- 住民のニーズ把握とそのニーズに応じた交通モードの導入
- バス停までの移手段の検討
- 通勤・通学者の公共交通利用促進に向けた取組の実施
- 天理駅コフンや桜井駅まほろばセンターに、子供が公共交通で行きたくなる施策の検討

ー観光客向けー

【目標】公共交通を利用した観光のための取組実施

- 公共交通を利用した観光モデルルートの立案・周知
- 沿線施設と連携したインセンティブ付与等による公共交通利用促進策の実施
- 観光情報の発信とそれに併せた広域周遊の促進策の実施
- 公共交通を利用したイベントの立案・周知

まちづくりの方向性(イメージ図)



:重点取組事項

住民向けの取組

観光客向けの取組

取組名	天理桜井線の抜本的な見直しによる、持続的な公共交通体系の構築
取組内容	・利用者のニーズを把握し、バス路線の再編やデジタル技術を活用したデマンド交通の導入、コミュニティバスの再編等により利便性を向上 ・バス-鉄道ダイヤの見直し等により、乗り継ぎを円滑化
実施主体・協力主体	天理市、桜井市、奈良県、奈良交通、鉄道事業者
実施効果	公共交通利便性向上、公共交通利用率の増加
実施期間	R6.4～

取組名	駅・バス停までの自家用車送迎を公共交通に転換するとともに利用促進策の実施
取組内容	・駅・バス停への送迎に自家用車利用が多いため、そうした需要を公共交通へ転換する ・拠点整備に併せた公共交通利用促進策を検討・実施
実施主体・協力主体	天理市、桜井市、奈良県
実施効果	バスの利用者増加
実施期間	R5.4～

取組名	観光客向けモデルルート作成・展開
取組内容	・各観光施設等に公共交通で巡っていただくようなモデルルート作成・展開
実施主体・協力主体	天理市、桜井市、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R4.10～

取組名	住民の移動ニーズを踏まえた天理市地域公共交通計画の取組を推進
取組内容	・地域公共交通計画にある計画記載事項を実施
実施主体・協力主体	天理市、奈良県
実施効果	持続可能な公共交通の実現
実施期間	R6.4～

取組名	交通事業者と市関係施設が連携した公共交通利用促進
取組内容	・市関係施設との連携による公共交通利用促進のイベント等を検討・実施
実施主体・協力主体	桜井市、奈良県、奈良交通、交通事業者
実施効果	公共交通利用者数の増加、施設利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	来訪者への広域周遊の促進
取組内容	・トレイルセンター等と連携して地域の魅力を発信し、それと併せて沿線観光地への周遊を促進
実施主体・協力主体	天理市、桜井市、奈良県、奈良交通
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	デマンド型交通の拡充
取組内容	・デマンド型交通の運行区域の拡充を検討
実施主体・協力主体	田原本町、奈良県
実施効果	公共交通空白地の解消
実施期間	R6.10～

取組名	定時定路線型バスの導入
取組内容	・公共交通空白地域における移動手段の確保のため、定時定路線型バスの導入を実施
実施主体・協力主体	田原本町、奈良県
実施効果	公共交通空白地の解消
実施期間	R7.4～

取組名	路線バス車内モニターによる観光施設案内
取組内容	・路線バス車内のモニターで、観光施設の案内等を行い、観光地の知名度向上とともに利便性向上を図る取組を検討・実施
実施主体・協力主体	桜井市、奈良県、奈良交通
実施効果	観光地の魅力PR、公共交通利便性向上
実施期間	R5.4～

取組名	自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の利用促進
取組内容	・令和5年3月より販売を開始している自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の普及のためのPRを実施 ・コミュニティバスでの活用を実施
実施主体・協力主体	奈良交通、桜井市
実施効果	バス利用者増加、それに伴う鉄道利用者増加
実施期間	R5.3～

取組名	コミュニティバスデータのGTFS化に伴うオープンデータ化及び住民への周知
取組内容	・令和4年度に県で整備したコミュニティバスデータのGTFSデータ化を活用し、各種検索サイトへのデータ提供や、住民へのPRの実施
実施主体・協力主体	桜井市、奈良県
実施効果	コミュニティバスの利用者増加
実施期間	R5.4～

取組名	住民の移動ニーズを踏まえた利用促進策の実施
取組内容	・利用促進のため、桜井市民の通院利用における特別乗車券の検討・実施
実施主体・協力主体	桜井市、奈良県、奈良交通
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R7.4～

○東部Bにおける重点取組事項について

○天理桜井線の抜本的な見直しによる、持続的な公共交通体系の構築

重点取組事項のねらい	天理桜井線の役割を見直し、住民の移動ニーズに応える、持続的な公共交通体系の実現
実施効果	地域住民の利便性の向上、公共交通利用率の増加
活用する支援制度	公共交通基本計画推進支援事業

		1年目(R6)	2年目(R7)	3年目(R8)	4年目(R9～)
実施内容		<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査や利用実績等に基づくデータ分析(移動ニーズ把握・潜在需要の把握) 路線再編による課題整理(通勤/通学利用者向けの取組・補助金・費用負担割合等) 	<ul style="list-style-type: none"> 利用促進策の検討・実施 	<ul style="list-style-type: none"> AIデマンドの利用環境整備(案内標識やベンチ整備等) AIデマンドの利用促進 利用促進策の実施 利用促進策の実施結果整理 	<ul style="list-style-type: none"> 路線再編の必要性を検討 路線再編も含めた住民の移動ニーズをカバーする交通モードと利用促進策の検討(実証運行含む) 利用環境整備(公共交通マップ作成含む)
役割分担 (※1:実施主体)	奈良県	<ul style="list-style-type: none"> 路線再編に係る調査検討を支援 	<ul style="list-style-type: none"> 利用促進策への支援 広報の支援 	<ul style="list-style-type: none"> 利用促進策/利用環境整備への支援 	<ul style="list-style-type: none"> 路線再編に係る調査検討を支援 実証運行への支援 利用促進策/利用環境整備への支援
	天理市	<ul style="list-style-type: none"> AIデマンド交通に本格運行 路線再編による課題整理 利用実態調査等を実施し、路線再編の必要性を検討 	<ul style="list-style-type: none"> AIデマンド交通網の拡張～データ分析 利用促進策の検討・実施 地域住民の対する利用促進策の周知 	<ul style="list-style-type: none"> AIデマンド交通網の拡張～データ分析(R7結果反映) 利用促進策/利用環境整備の実施 利用促進策の実施結果整理 	<ul style="list-style-type: none"> AIデマンド交通網の拡張(R8結果反映) 路線再編の必要性を検討 利用実態調査等を実施し、住民の移動ニーズをカバーする交通モードの実証運行計画立案 公共交通マップ作成 利用促進策/利用環境整備の実施
	桜井市	<ul style="list-style-type: none"> 路線再編による課題整理 利用実態調査等を実施し、路線再編の必要性を検討 	<ul style="list-style-type: none"> 利用促進策の検討・実施 地域住民の対する利用促進策の周知 	<ul style="list-style-type: none"> 利用促進策/利用環境整備の実施 利用促進策の実施結果整理 	<ul style="list-style-type: none"> 路線再編の必要性を検討 利用実態調査等を実施し、住民の移動ニーズをカバーする交通モードの実証運行計画立案 公共交通マップ作成 利用促進策/利用環境整備の実施
	交通事業者	<ul style="list-style-type: none"> バス乗降データの提供 	<ul style="list-style-type: none"> バス乗降データの提供 利用環境整備への協力 	<ul style="list-style-type: none"> バス乗降データの提供 利用環境整備への協力 	<ul style="list-style-type: none"> バス乗降データの提供
関係する補助		<ul style="list-style-type: none"> 公共交通基本計画推進支援事業(調査検討) 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通基本計画推進支援事業(実証運行) 公共交通基本計画推進支援事業(利用環境整備) 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通基本計画推進支援事業(実証運行) 公共交通基本計画推進支援事業(利用環境整備) 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通基本計画推進支援事業(実証運行)

路線・地域の概要

- **関係市町村**
宇陀市、曾爾村、御杖村
- **主な公共交通機関**
 - ・近鉄 大阪線
 - ・三重交通(曾爾香落溪線 名張奥津線)
 - ・宇陀地域連携コミュニティバス(奥宇陀わくわくバス)
 - ・その他コミュニティバス:御杖ふれあいバス、御杖村デマンド交通、大宇陀南部ボランティア有償バス
- **主な利用データ※**
 - ・近鉄榛原駅 乗車人員 **6,802人/日(R5)**
 - ・三重交通 曾爾香落溪線:5診断指標のうち、収支率で未達成(R2~)
 - ・三重交通 名張奥津線:5診断指標のうち、収支率で未達成(R2~)
 - ・宇陀地域連携コミュニティバス:5診断指標のうち、平均乗車密度、利用者1人あたりの行政負担額の2項目が未達成(R3~)

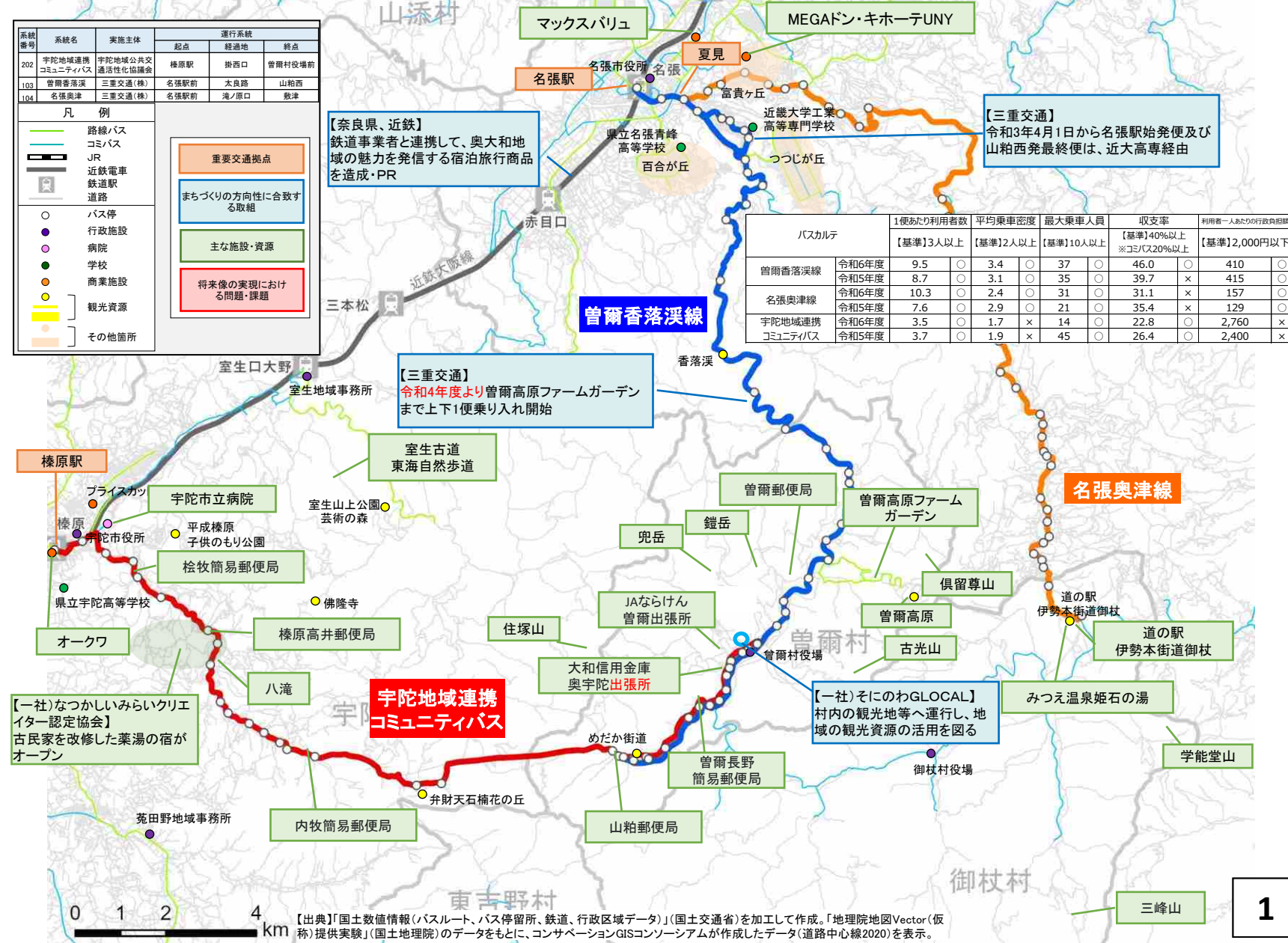
※近鉄駅の場合は乗降人員を示している

- **関係情報**
 - ・御杖村にはドライブやツーリングで立ち寄る道の駅「伊勢本街道御杖」の農産物直売所(R5利用者:55,895人)・姫石の湯(R5利用者:61,330人)など観光施設が豊富である
 - ・曾爾村では、門僕神社秋祭りが10月、スポーツの日の前日の日曜日に開催
 - ・そののわGLOCAL(R4:25件、R5:18件、主にインバウンド観光客(特に東南アジア)を村内の観光地等へ運行し、地域の観光資源の活用を図る)
 - ・【三重交通】令和3年4月から名張駅始発便及び山粕西発最終便(曾爾香落溪線)は、近大高専経由
 - ・【三重交通】曾爾高原ファームガーデンに乗り入れを開始
- **令和9年度に目標とすべき状況(主な評価指標)**
 - ・対象路線につき、診断指標5項目の達成

本エリアにおける公共交通の位置付けと課題

- 【位置付け】
 - 東西方向に走る近鉄の名張駅および榛原駅から観光資源が豊富な曾爾高原や道の駅伊勢本街道御杖まで路線バスでアクセス可能
 - 曾爾村から榛原駅に向かう生活路線
 - 奥宇陀わくわくバスでは、貨客混載を実施
- 【課題】
 - 自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある
 - 生活交通の利用喚起や利用者が増えないことの原因分析が不足している
 - 多くの観光客が自家用車で来訪しており、公共交通利用への仕掛けが必要

まちづくりの方向性(イメージ図)



取組の方向性

- 住民向け —
- 【目標】通院・買い物等、必要な用事を車がなくても便利に
- 住民の移動ニーズを踏まえた複数交通モードを活用した取組の実施
- 奥宇陀わくわくバス沿線地域における公共ライドシェアの導入を検討・実施
- デジタル技術等を活用した新たな交通サービスの検討
- 観光客向け —
- 【目標】公共交通を利用した観光のための取組実施
- 観光客取込のために実施した運行ルート変更の周知強化
- 公共交通を利用して登山やトレッキングができる施策の検討
- 公共交通の利用に繋がる観光イベントの企画・発信を強化

【出典】「国土数値情報(バスルート、バス停留所、鉄道、行政区域データ) (国土交通省)を加工して作成。「地理院地図Vector(仮称)提供実験」(国土地理院)のデータをもとに、コンソーシアムGISコンソーシアムが作成したデータ(道路中心線2020)を表示。

住民向けの取組

取組名	住民の移動ニーズ把握とそのニーズに応じた交通モード導入の検討・実施
取組内容	・生活交通の利用喚起や利用者が増えないことの原因を分析し、そのニーズに応じた交通モードの再編や、新たな交通モード導入の検討・実施
実施主体・協力主体	宇陀市、曾爾村、御杖村、奈良県
実施効果	持続可能な公共交通の実現
実施期間	R5.4～

取組名	自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の利用促進
取組内容	・令和5年3月より販売を開始している自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の普及のためのPRを実施 ・コミュニティバスに活用する取組を検討・実施
実施主体・協力主体	奈良交通
実施効果	バス利用者増加、それに伴う鉄道利用者増加
実施期間	R5.3～

取組名	将来的な公共交通の選択肢となり得る自動運転の実証運行事業
取組内容	・自動運転技術を活用し、高齢者の移動が多い日中の時間帯を中心に病院 やスーパー 等を複数回周回することにより高齢者の移動手段を確保
実施主体・協力主体	宇陀市、奈良県、国、奈良交通
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	地域公共交通の確保と医療版MaaSを実現するため、自動運転技術の導入及び通院・交通における予約の一元化システムの導入
取組内容	・乗車予約システム技術を活用し、宇陀市立病院にて次の通院の予約とともに、病院までの交通予約を同タイミングで行えるようにする
実施主体・協力主体	宇陀市、奈良県、国
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	公共交通利用促進のためのモビリティ・マネジメント
取組内容	・公共交通に不慣れな利用者に対し、わかりやすい情報発信やバスの乗り方教室等を実施し、公共交通の利用促進を図る
実施主体・協力主体	宇陀市、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	コミュニティバスデータのGTFS化に伴うオープンデータ化及び住民への周知
取組内容	・令和4年度に県で整備したコミュニティバスデータのGTFSデータ化を活用し、各種検索サイトへのデータ提供や、住民へのPRの実施
実施主体・協力主体	宇陀市、御杖村、奈良県
実施効果	コミュニティバスの利用者増加
実施期間	R5.4～

取組名	デマンド交通の充実と公共交通車両の脱炭素化
取組内容	・住民の生活交通を確保するため、現行のデマンド交通の機能を拡充させるとともに、公共交通の脱炭素化を進めるため、使用車両を電気自動車に更新する
実施主体・協力主体	御杖村、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加、温室効果ガス排出量の削減
実施期間	R7.4～

取組名	奥宇陀わくわくバス沿線地域における公共ライドシェアの導入
取組内容	・交通空白地及び担い手不足の解消のため、地域住民が自家用車を活用して有償運送を行う公共ライドシェアの導入を検討・実施
実施主体・協力主体	宇陀市、曾爾村、御杖村、奈良県
実施効果	持続可能な公共交通の実現
実施期間	R6.4～

取組名	高齢者に対するバス利用券の導入
取組内容	・現在運用されているタクシー券について、バスでも利用できるよう関係者間の調整を行い、R6年度より利用を開始
実施主体・協力主体	曾爾村、三重交通、奈良交通、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

観光客向けの取組

取組名	オールシーズン楽しめる本エリアへ訪れる観光客への公共交通利用促進
取組内容	・春夏は佛隆寺の桜、彼岸花、秋は曾爾高原のスキや門僕神社秋祭り、冬は三峰山の霧氷など、オールシーズン楽しめる本エリアに来訪する観光客に向けた公共交通利用施策のを検討・実施
実施主体・協力主体	宇陀市、曾爾村、御杖村、奈良県、交通事業者
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	観光客向けモデルルート作成及び観光PRの実施
取組内容	・各観光施設等に公共交通で巡っていただくようなモデルルートの作成 ・デジタル技術等を活用した効果的な周知方法の検討・実施
実施主体・協力主体	宇陀市、曾爾村、御杖村、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	公共交通を利用したアウトドアコースの提供
取組内容	・室生古道や東海自然歩道、曾爾高原など、公共交通を活用したアウトドアコースの提供、PRを実施
実施主体・協力主体	宇陀市、曾爾村、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

路線・地域の概要

- 関係市町村
 - 桜井市、宇陀市
- 主な公共交通機関
 - ・JR 桜井線(万葉まほろば線)
 - ・近鉄 大阪線
 - ・奈良交通(大宇陀線 桜井菟田野線)
 - ・コミュニティバス:桜井市コミュニティバス、市営有償バス大宇陀南部線(かぎろひバス)
- 主な利用データ※
 - ・JR桜井駅 乗車人員 1,822人/日(R5)
 - ・近鉄桜井駅 乗車人員 13,747人/日(R5)
 - ・近鉄榛原駅 乗車人員 6,802人/日(R5)
 - ・奈良交通大宇陀線 : 診断指標達成(R5)
 - ・奈良交通桜井菟田野線 : 5診断指標のうち、平均乗車密度と収支率の2項目が未達成(R2~)

- 関係情報
 - ・「宇陀市地域公共交通計画」(令和7年度改定)
 - 道の駅「宇陀路大宇陀」の乗継拠点整備により、周辺の公共交通利便性や回遊性の向上を図る
 - ・うだ・アニマルパークの来園者数は、令和5年度160,560人(令和4年度175,825人)
 - ・令和5年度内にも数度のイベント(ほんのりあんどん(8月)、うだ・アニマルパークのぱくぱくパーク(11月)、マルシェ・ド・ママン(3月)、春色フェスタ(3月)等)を開催
 - ・大宇陀線沿線の宇陀高校大宇陀学舎について、通学者大幅増の見込(R5:55名、R6以降:100名)
 - ・令和5年12月、令和6年11月に天満台地区で自動運転の実証実験を実施
- 令和9年度に目標とすべき状況(主な評価指標)
 - ・桜井菟田野線:診断指標5項目の達成
 - ・大宇陀線:計画輸送量15人以上の達成

※近鉄駅の場合は乗降人員を示している

本エリアにおける公共交通の位置付けと課題

- 【位置付け】
 - 桜井菟田野線は、小学校の通学利用に特化
 - 大宇陀線は、駅や病院、学校等への生活利用が中心
 - 近鉄大阪線は、大阪方面への人流の動脈として機能(東:近鉄榛原駅、西:JR・近鉄桜井駅と接続)

- 【課題】
 - 自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある
 - 駅までの交通手段に、公共交通が選択されるような仕掛けが必要
 - 桜井菟田野線は小学校の通学路線であるため、路線の維持に繋がる新たな需要の取込・創出が必要
 - 多くの観光客が自家用車で来訪しており、公共交通利用への仕掛けが必要
 - うだ・アニマルパーク等の観光地への交通手段に、公共交通が活用される仕掛け(観光周遊マップの活用等)が必要

取組の方向性

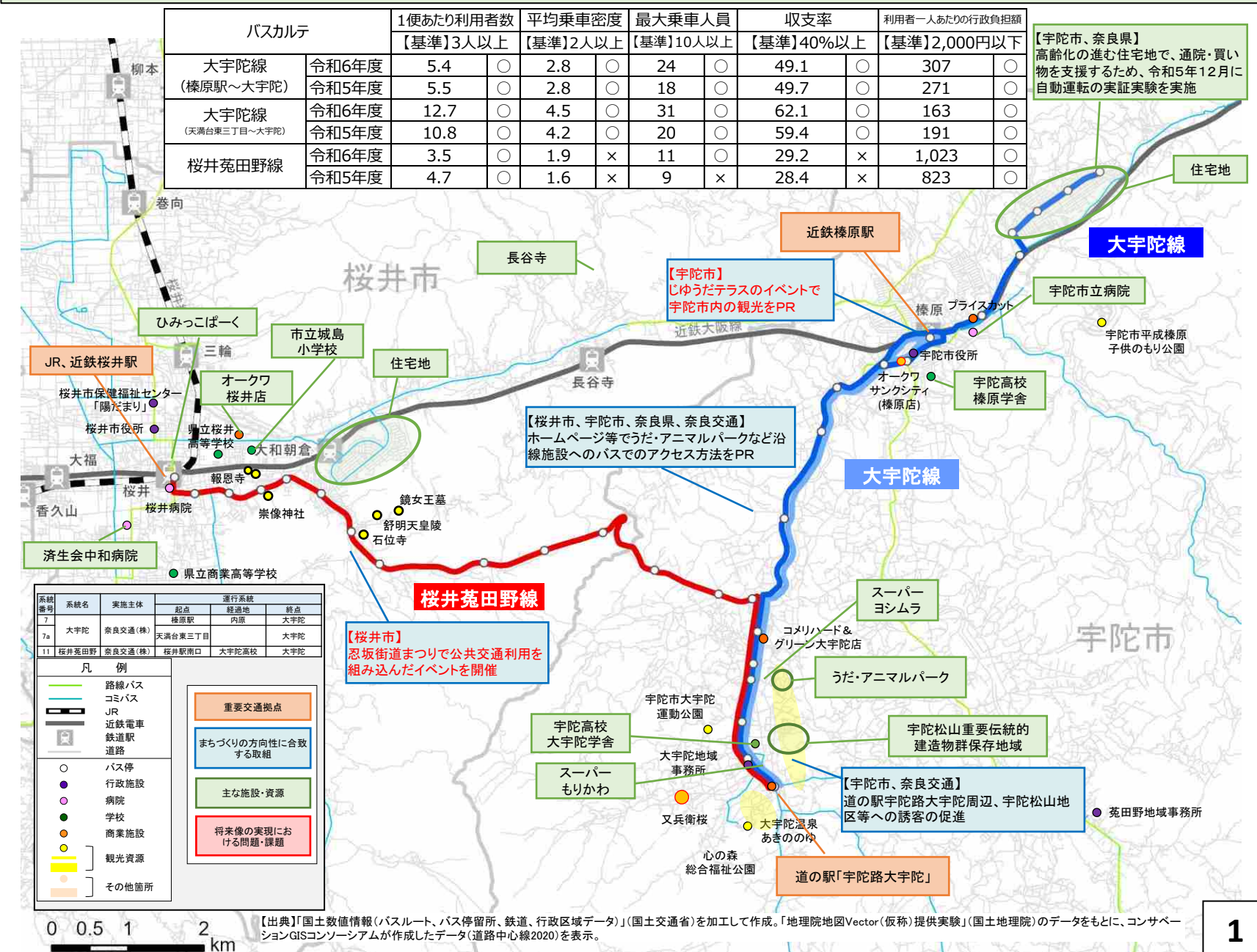
- 住民向け—
 - 【目標】拠点駅までの移動を公共交通に転換

- 住民のニーズ把握とそのニーズに応じた交通モードの導入
- 鉄道-路線バス、二次交通等の乗り継ぎ利便性向上

- 観光客向け—
 - 【目標】公共交通を利用した観光のための取組実施

- 公共交通を利用してうだ・アニマルパークに来園してもらえる施策および、うだ・アニマルパークへの路線バス乗り入れ検討
- 公共交通の利用に繋がる観光イベントの企画・発信を強化
- 拠点駅まで鉄道で来ていただけるような取組実施

まちづくりの方向性(イメージ図)



: 重点取組事項

住民向けの取組

観光客向けの取組

取組名	デジタル技術等の活用により、持続的な公共交通体系を構築し、暮らしやすいまちを目指す
取組内容	・天満台地区への自動運転車両の実証運行や通院予約等の機能を盛り込んだ乗車予約システムを運用し、高齢者が利用しやすく、かつ持続的な交通サービスを実現する
実施主体・協力主体	宇陀市、奈良県、国
実施効果	公共交通の利用満足度の向上
実施期間	R5.12～

取組名	主要駅への送り迎えを公共交通に転換
取組内容	・駅への送迎は自家用車が多いため、そうした需要を公共交通へ転換する取組を検討・実施 ・鉄道からバスへの乗り継ぎ案内の周知方法を検討
実施主体・協力主体	桜井市、宇陀市、奈良県
実施効果	バスの利用者増加
実施期間	R5.4～

取組名	観光客向けモデルルート作成・展開
取組内容	・各観光施設等に公共交通で巡っていただくようなモデルルートの作成・展開 ・デジタル技術等を活用した新たな企画や効果的な情報発信方法を検討・実施
実施主体・協力主体	桜井市、宇陀市、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	住民向けのモデルコースの作成・展開
取組内容	・病院、買い物にて公共交通の利用を促進するため、どの時間にバスに乗り、用事を済ませ、どの時間のバスに乗れば何時に帰宅できるといった住民向けのモデルコースを作成・展開
実施主体・協力主体	桜井市、宇陀市、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	公共交通の乗り継ぎ利便性の向上
取組内容	・ダイヤ調整による、大宇陀線・桜井菟田野線と他の交通機関との乗り継ぎを改善し、通院利用の利便性向上を図る
実施主体・協力主体	桜井市、宇陀市、奈良県、奈良交通
実施効果	公共交通の利便性の向上
実施期間	R5.4～

取組名	うだ・アニマルパークへの路線バス乗り入れ
取組内容	・うだ・アニマルパークへ直接路線バスが乗り入れするための取組を検討・実施
実施主体・協力主体	宇陀市、奈良県、奈良交通
実施効果	公共交通の利便性の向上
実施期間	R5.4～

取組名	自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の利用促進
取組内容	・令和5年3月より販売を開始している自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の普及のためのPRを実施 ・コミュニティバスに活用する取組を実施
実施主体・協力主体	奈良交通、桜井市、宇陀市
実施効果	バス利用者増加、それに伴う鉄道利用者増加
実施期間	R5.3～

取組名	コミュニティバスデータのGTFS化に伴うオープンデータ化及び住民への周知
取組内容	・令和4年度に県で整備したコミュニティバスデータのGTFSデータ化を活用し、各種検索サイトへのデータ提供や、住民へのPRの実施
実施主体・協力主体	桜井市、宇陀市、奈良県
実施効果	コミュニティバスの利用者増加
実施期間	R5.4～

取組名	鉄道と連携した観光地の魅力発信
取組内容	・鉄道と連携した企画を検討し、観光地の魅力を発信と公共交通の利用促進に向けた取組を検討・実施
実施主体・協力主体	桜井市、宇陀市、奈良県、近畿日本鉄道
実施効果	鉄道の利用者増加
実施期間	R5.4～

○東部Dにおける重点取組事項について

○デジタル技術等の活用により、持続的な公共交通体系を構築し、暮らしやすいまちを目指す

重点取組事項のねらい	デジタル技術を活用したモビリティ・サービス導入や公共交通の利用促進に向けた取組を進めるとともに、大宇陀線を見直し持続的な公共交通体系を再構築
実施効果	公共交通利用満足度の向上、公共交通利用者の増加
活用する支援制度	公共交通基本計画推進支援事業

		1年目(R6)	2年目(R7)	3年目(R8)
実施内容		<ul style="list-style-type: none"> デジタル技術を活用した自動運転車両の実証運行 乗車予約システムの試験運用/通院予約機能追加 バス待合環境の整備検討 公共交通利用促進策の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 大宇陀線の見直し案の検討 デジタル技術を活用した自動運転車両の実証運行 乗車予約システムの試験運用等 バス待合環境の整備 利用促進策の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 大宇陀線の見直し デジタル技術を活用した自動運転車両の実証運行 見守り/防犯システムの本格稼働 乗車予約システムの本格稼働
役割分担 (※1.実施主体)	奈良県	<ul style="list-style-type: none"> 実証運行、予約システム機能追加への協力・支援 関係者間の調整への協力 	<ul style="list-style-type: none"> 実証運行、試験運用への協力・支援 関係者間の調整への協力 	<ul style="list-style-type: none"> 情報提供(国の補助制度、他府県事例)
	宇陀市	<p>【自動運転】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実証運行(榛原駅～宇陀市立病院～天満台地域)～データ分析・課題整理 車両の機能追加検討(路車協調システム) <p>【乗車予約システム】</p> <ul style="list-style-type: none"> 試験運用・検証(通院予約機能・モバイル版対応機能等) 地域関係者へ周知 <p>【バス待合環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> 乗り換えポイントへのバスロケーションシステム導入検討 <p>【利用促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 公共交通利用者へのインセンティブ付与等の仕組み検討 	<p>【バス路線の見直し】</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用データ分析、地域関係者の協議のもと、大宇陀線見直し案検討(便数、ダイヤ) 地域関係者へ周知 <p>【自動運転】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実証運行(榛原駅～宇陀市立病院～天満台地域)～利用データ分析(R6結果反映) 車両の機能追加検討(AI技術活用による見守り・防犯システム) <p>【乗車予約システム】</p> <ul style="list-style-type: none"> 試験運用・検証(通院予約機能) 追加機能の検討(キャッシュレス決済機能等) <p>【バス待合環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> 乗り換えポイントへのバスロケーションシステム導入検討 <p>【利用促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 公共交通利用者へインセンティブ付与の検討 	<p>【バス路線の見直し】</p> <ul style="list-style-type: none"> 路線バスのダイヤ・便数等の見直し <p>【自動運転】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実証運行(榛原駅～宇陀市立病院～天満台地域)～利用データ分析(R7結果反映) AI技術活用による見守り/防犯システム本格稼働 <p>【乗車予約システム】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本格稼働 <p>【バス待合環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> バスロケーションシステム整備
	病院関係者	<ul style="list-style-type: none"> 通院予約システム導入検討 システム利用方法を病院関係者へ周知 	<ul style="list-style-type: none"> 通院予約システム導入検討・準備 病院関係者や通院される方へ周知 	<ul style="list-style-type: none"> 通院予約システム連携
	交通事業者	<ul style="list-style-type: none"> バス乗降データの提供 	<ul style="list-style-type: none"> バス乗降データの提供 	<ul style="list-style-type: none"> バス乗降データの提供
	関係する補助	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通基本計画推進支援事業(実証運行) 公共交通基本計画推進支援事業(利用環境整備) 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通基本計画推進支援事業(実証運行) 公共交通基本計画推進支援事業(利用環境整備) 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通基本計画推進支援事業(調査検討)

路線・地域の概要

- **関係市町村**
 - ・宇陀市、東吉野村
- **主な公共交通機関**
 - ・近鉄 大阪線
 - ・奈良交通(古市場線 榛原東吉野線)
 - ・コミュニティバス等: 奥宇陀わくわくバス(宇陀市)、かぎろひバス(宇陀市)、らくらくタクシー(宇陀市)、ふるさと号(東吉野村)
 - ・自家用有償旅客運送: あいの家(東吉野村)
- **主な利用データ※**
 - ・近鉄榛原駅 乗車人員 6,802人/日(R5)
 - ・古市場線 診断指標達成(R5)
 - ・榛原東吉野線 診断指標達成(R5)

- **関係情報**
 - ・高見山やふるさと村周辺の観光施設への来訪には近鉄榛原駅を拠点とした路線バスおよび東吉野村コミュニティバスの利用が必要
 - ・東吉野村小川地区まちづくりに関する基本計画を策定(R2.6月)しており、令和3年度に本地区にサテライトオフィスを整備、**令和6年度に新たに1社が利用を開始したほか、引き続き移住促進を図っている**
 - ・ひよしのさとマルシェには、村の特産品や軽食の他、村内の観光パンフレットを用意

※近鉄駅の場合は乗降人員を示している

- **令和9年度に目標とすべき状況(主な評価指標)**
 - ・古市場線: 診断指標5項目、計画輸送量15人以上の達成
 - ・榛原東吉野線: 診断指標5項目、計画輸送量15人以上の達成

本エリアにおける公共交通の位置付けと課題

- 【位置付け】
 - 朝の通勤通学時間帯の利用が最も多い
 - 地域住民や免許返納した高齢者の通院や買い物利用に不可欠な路線
- 【課題】
 - 自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある
 - 路線バスの土日祝の運行は、榛原駅～菟田野のみとなっており、菟田野以南の移動にはコミュニティバスの利用が必要
 - 路線バスやコミュニティバスについて、ダイヤや乗り方について住民向けに周知が必要
 - 観光資源はあるが、来訪者の大半は車利用となっている

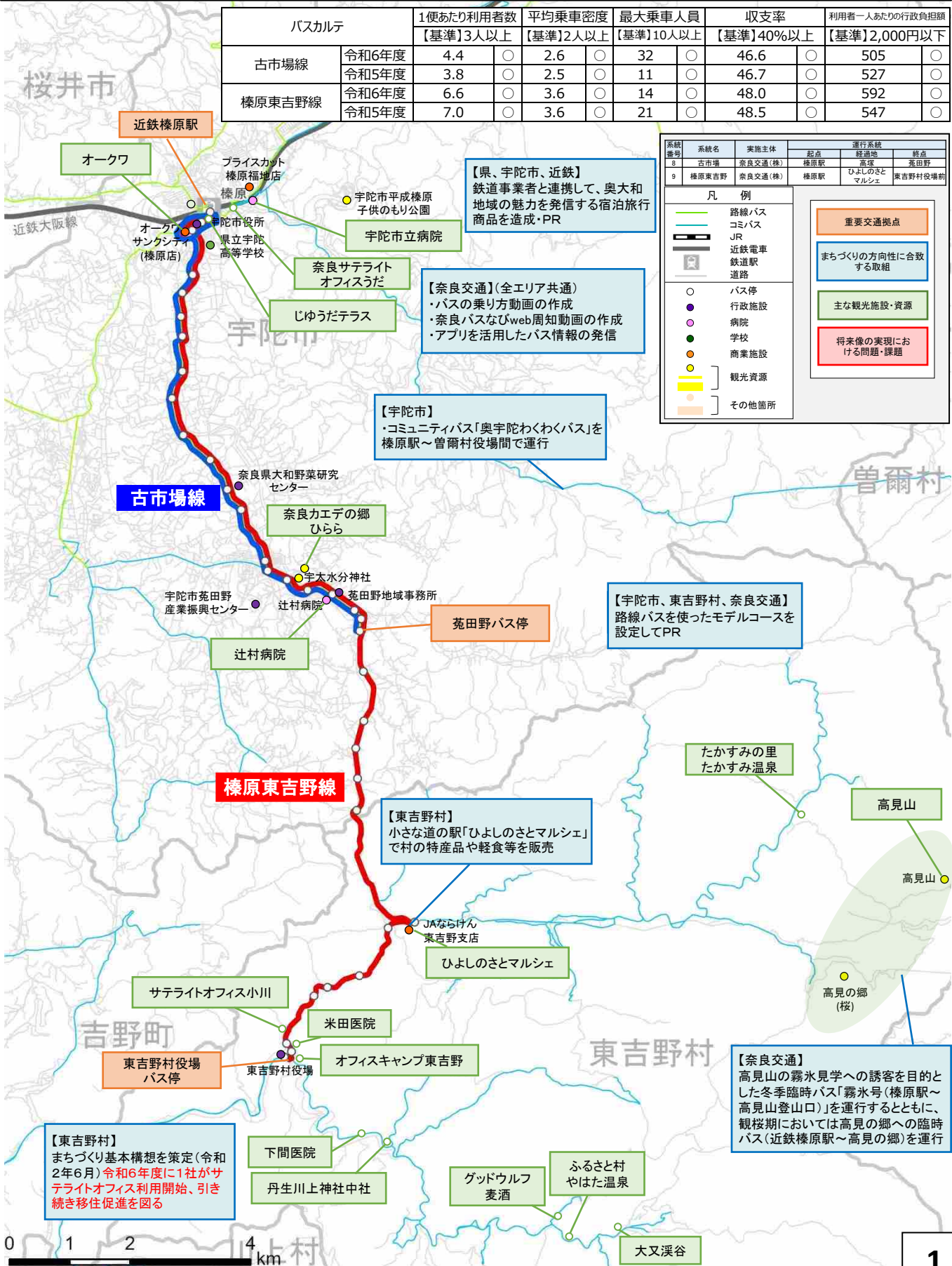
取組の方向性

- 住民向け —
- 【目標】通院・買い物等、必要な用事を車がなくても便利に
- 住民のニーズ把握とそのニーズに応じた交通モードの導入
- 路線バスやコミュニティバスについて、ダイヤや乗り方(自由乗降等)について住民向けにPRを実施

- 観光客向け —
- 【目標】公共交通を利用した観光のための取組実施

- 観光客取込のために実施した運行ルート変更の周知強化
- 公共交通を利用した観光モデルルートの立案ならびに観光イベントの企画・発信を強化
- 既存のコミュニティバスと周辺施設が連携したにぎわい創出の取組検討

まちづくりの方向性(イメージ図)



【出典】「国土数値情報(バスルート、バス停留所、鉄道、行政区画データ)」(国土交通省)を加工して作成。「地理院地図Vector(仮称)提供実験」(国土地理院)のデータをもとに、コンサーベーションGISコンソーシアムが作成したデータ(道路中心線2020)を表示。

住民向けの取組

観光客向けの取組

取組名	住民の公共交通の認知度向上による利用促進
取組内容	・乗り案内を作成・配布及び広報誌などを活用した地域住民への公共交通の情報提供を実施し、公共交通について認知度の向上を目指す
実施主体・協力主体	宇陀市、東吉野村、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	コミュニティバスデータのGTFS化に伴うオープンデータ化及び住民への周知
取組内容	・令和4年度に県で整備したコミュニティバスデータのGTFSデータ化を活用し、各種検索サイトへのデータ提供や、住民へのPRの実施
実施主体・協力主体	宇陀市、東吉野村、奈良県
実施効果	コミュニティバスの利用者増加
実施期間	R5.4～

取組名	観光客向けモデルルート作成による公共交通利用促進
取組内容	・各観光施設等に公共交通で巡っていただくようなモデルルートの検討・作成
実施主体・協力主体	宇陀市、東吉野村、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	住民向けモデルコース作成による公共交通利用促進
取組内容	・病院、買い物にて公共交通の利用を促進するため、どの時間にバスに乗り、用事を済ませ、どの時間のバスに乗れば何時に帰宅できるといった住民向けモデルコース作成に向けた取組を検討・展開
実施主体・協力主体	宇陀市、東吉野村、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の利用促進
取組内容	・令和5年3月より販売を開始している自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の普及のためのPRを実施 ・コミュニティバスに活用する取組を検討・実施
実施主体・協力主体	奈良交通
実施効果	バス利用者増加、それに伴う鉄道利用者増加
実施期間	R5.3～

取組名	鉄道事業者と連携した奥大和の魅力発信
取組内容	・鉄道事業者と連携して、奥大和地域の魅力を発信する宿泊旅行商品を造成・PR
実施主体・協力主体	宇陀市、東吉野村、奈良県、交通事業者
実施効果	来訪者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	将来的な公共交通の選択肢となり得る自動運転の実証運行事業
取組内容	・自動運転技術を活用し、高齢者の移動が多い日中の時間帯を中心に病院 やスーパー 等を複数回周回することにより高齢者の移動手段を確保
実施主体・協力主体	宇陀市、奈良県、国、奈良交通
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	コミュニティバスの安全性及び利便性向上
取組内容	・老朽化した車両を取り換えることで、安全性や乗客へのサービス向上を図る
実施主体・協力主体	東吉野村
実施効果	公共交通利用環境の向上
実施期間	R7.4～

取組名	交通モードを組み合わせた周遊観光の促進
取組内容	・観光客の移動ニーズに合わせて複数の交通モードが連携する周遊観光の取組を検討・実施
実施主体・協力主体	宇陀市、東吉野村、奈良県、交通事業者
実施効果	公共交通の利便性向上、来訪者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	地域公共交通の確保と医療版MaaSを実現するため、自動運転技術の導入及び通院・交通における予約の一元化システムの導入
取組内容	・乗車予約システム技術を活用し、宇陀市立病院にて次の通院の予約とともに、病院までの交通予約を同タイミングで行えるようにする
実施主体・協力主体	宇陀市、奈良県、国
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

路線・地域の概要

- **関係市町村**
奈良市、宇陀市
- **主な公共交通機関**
 - ・近鉄 大阪線
 - ・奈良交通(都祁榛原線)
 - ・コミュニティバス: 奈良市都祁地域コミュニティバス、奥宇陀わくわくバス
 - ・施設バス: スクールバス
- **主な利用データ***
 - ・近鉄榛原駅 乗車人員 6,802人/日(R5)
 - ・奈良交通都祁榛原線: 診断指標5項目達成(R5)

- **関係情報**
 - ・奈良市東部(都祁地域等)でさとやま民泊を推進することで、東部地域の賑わいを創出する
 - ・路線の維持には、沿線学校生による通学利用の維持・喚起が重要
 - ・キャンプ等アウトドア活動が楽しめる施設が沿線に立地
 - ・「宇陀市地域公共交通計画(R3)」グリーンスローモビリティの導入に向け実証実験(R5~)

※近鉄駅の場合は乗降人員を示している

- **令和9年度に目標とすべき状況(主な評価指標)**
 - ・都祁榛原線: 診断指標5項目の達成、計画輸送量15人以上達成

本エリアにおける公共交通の位置付けと課題

- 【位置付け】
 - 榛原駅周辺に病院など生活重要施設が立地している
 - 沿線に教育施設が点在している
- 【課題】
 - 自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある
 - 都祁榛原線を**基幹**とした榛原駅周辺の生活利便施設への交通の確保のため、コミュニティバスなどと連携した周辺集落とのアクセス向上に向けどのような**取組が必要か**
 - 公共交通空白地解消に向け、多様な交通手段をどう活用するか
 - 針T・R・Sの利用者が公共交通を利用するためにはどのような**取組が必要か**

取組の方向性

—住民向け—

【目標】通院・通学等の自動車需要を公共交通利用に取込

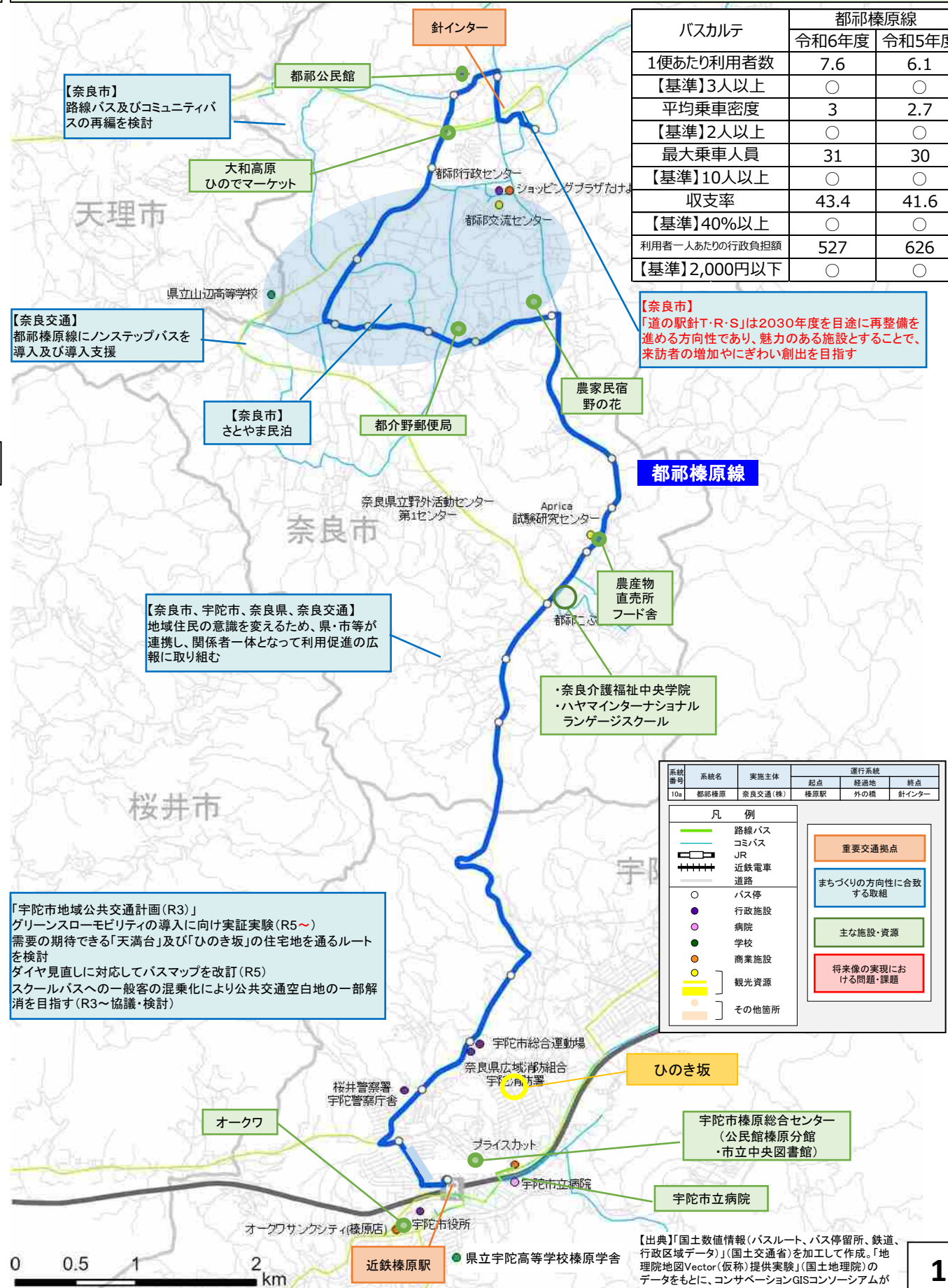
- 複数の交通モードと連携した路線バス・コミュニティバスの利用者増につながる取組
- デジタル技術等を活用した取組(グリーンスローモビリティ等)による二次交通手段の充実
- 公共交通利用促進を高める取組

—観光客向け—

【目標】針T・R・Sへの来訪者増・にぎわい創出による公共交通利用者の増加
【そのための公共交通の活用】周辺施設・店舗と連携した取組が可能ではないか

- 周辺施設と連携した公共交通利用促進の取組
- 効果的な情報発信による針T・R・Sのにぎわい創出の取組

まちづくりの方向性(イメージ図)



住民向けの取組

観光客向けの取組

取組名	利便性と効率性を両立した交通体系の構築と利用者増につながる取組の推進
取組内容	・住民参加によるワークショップを開催し、移動ニーズの把握を行い、スクールバスや福祉交通等と連携した路線バス・コミュニティバスの利便性・効率性の向上を図る取組を検討・実施
実施主体・協力主体	奈良市、宇陀市、奈良県
実施効果	公共交通の利便性、効率性の向上
実施期間	R5.4～

取組名	奈良市東部地域公共交通計画策定
取組内容	・奈良市総合交通戦略での検討結果等を基に、スクールバス等の地域公共交通以外の移動手段の状況も調査対象とし、東部地域の公共交通や地域の現況を把握・分析し計画を策定
実施主体・協力主体	奈良市、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	針テラスの整備に併せた公共交通利用促進策の検討・実施
取組内容	・針テラスを乗り継ぎ拠点として活用できるよう、周辺施設と連携した公共交通の利用促進策を検討・実施
実施主体・協力主体	奈良市、奈良県
実施効果	公共交通の利便性向上
実施期間	R5.4～

取組名	将来的な公共交通の選択肢となり得る自動運転の実証運行事業
取組内容	・自動運転技術を活用し、高齢者の移動が多い日中の時間帯を中心に病院 やスーパー 等を複数回周回することにより高齢者の移動手段を確保
実施主体・協力主体	宇陀市、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	通院・交通における予約の一元化
取組内容	・乗車予約システム技術を活用し、通院予約と交通予約を同じタイミングで行えるようにシステム整備を実施
実施主体・協力主体	国、奈良県、宇陀市、奈良交通、奈良県警
実施効果	公共交通の利便性の向上
実施期間	R5.4～

取組名	観光利用促進に向けた情報発信
取組内容	・観光情報とあわせた公共交通情報の案内ならびに来訪者向けのデジタル技術等を活用した情報提供サービスを充実し、公共交通の利用促進を図る取組を検討・実施
実施主体・協力主体	宇陀市、奈良県
実施効果	公共交通利用者の増加、利便性向上
実施期間	R5.4～

取組名	コミュニティバスデータのGTFS化に伴うオープンデータ化及び住民への周知
取組内容	・令和4年度に県で整備したコミュニティバスデータのGTFSデータ化を活用し、各種検索サイトへのデータ提供や、住民へのPRの実施
実施主体・協力主体	奈良市、宇陀市、奈良県
実施効果	コミュニティバスの利用者増加
実施期間	R5.4～

取組名	自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の利用促進
取組内容	・令和5年3月より販売を開始している自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の普及のためのPRを実施 ・コミュニティバスに活用する取組を検討・実施
実施主体・協力主体	奈良交通
実施効果	バス利用者増加、それに伴う鉄道利用者増加
実施期間	R5.3～

取組名	ダイヤ調整等による公共交通の利便性向上
取組内容	・乗り継ぎ拠点である榛原駅、それと接続する路線バス、コミュニティバスのダイヤ調整を行い、利便性の向上を図る
実施主体・協力主体	宇陀市、奈良県
実施効果	公共交通の利便性向上
実施期間	R5.4～

路線・地域の概要

●関係市町村

桜井市、明日香村

●主な公共交通機関

- ・JR 桜井線(万葉まほろば線)
- ・近鉄 大阪線、橿原線、南大阪線
- ・奈良交通(桜井飛鳥線)
- ・コミュニティバス:桜井市コミュニティバス、あすかデマンド乗合交通

●主な利用データ※

- ・JR桜井駅 乗車人員 1,822人/日(R5)
- ・近鉄桜井駅 乗車人員 13,879人/日(R5)
- ・橿原神宮前 乗車人員 16,713人/日(R5)
- ・飛鳥駅 乗車人員 2,088人/日(R5)
- ・奈良交通桜井飛鳥線:診断指標達成(R6)

※近鉄駅の場合は乗降人員を示している

●令和9年度に目標とすべき状況(主な評価指標)

- ・桜井飛鳥線:診断指標5項目の達成

●関係情報

- ・「桜井駅周辺地区まちづくり基本計画(H30.10月(R5.4月改定))」
- ・牽牛子塚古墳の一般公開(R4.3月~)
- ・NAFIC附属セミナーハウスが開校(R4年度)
- ・明日香村役場新庁舎開庁(R5.5月)
- ・「飛鳥・藤原」世界文化遺産登録(R8年予定)※「石舞台古墳」を始めとする世界文化遺産構成資産候補が19箇所点在
- ・新リゾート施設開業
- ・「明日香まるごと博物館」地域計画の推進
- ・「飛鳥宮跡周辺地区まちづくり基本構想、飛鳥駅周辺地区まちづくり基本構想(H29.6月)」の推進
- ・飛鳥京跡苑池の整備

本エリアにおける公共交通の位置付けと課題

【位置付け】

- 通院や事業所等への通勤といった生活利用があるが、観光利用の占める割合が多く、観光客の変動で収支率が大きく変動する

【課題】

- 自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある
- JR・近鉄桜井駅から観光エリアへのアクセスを桜井飛鳥線が担っており、現在運行している観光周遊バス等とのシームレスな接続が必要
- 観光客に対し、公共交通で来訪いただくためにどのような仕掛けを行うか
- 車を運転できない高齢者層を中心に、住民の移動手段確保をどのように実現するか

取組の方向性

—住民向け—

【目標】通院・買い物等、必要な用事を車がなくても便利に

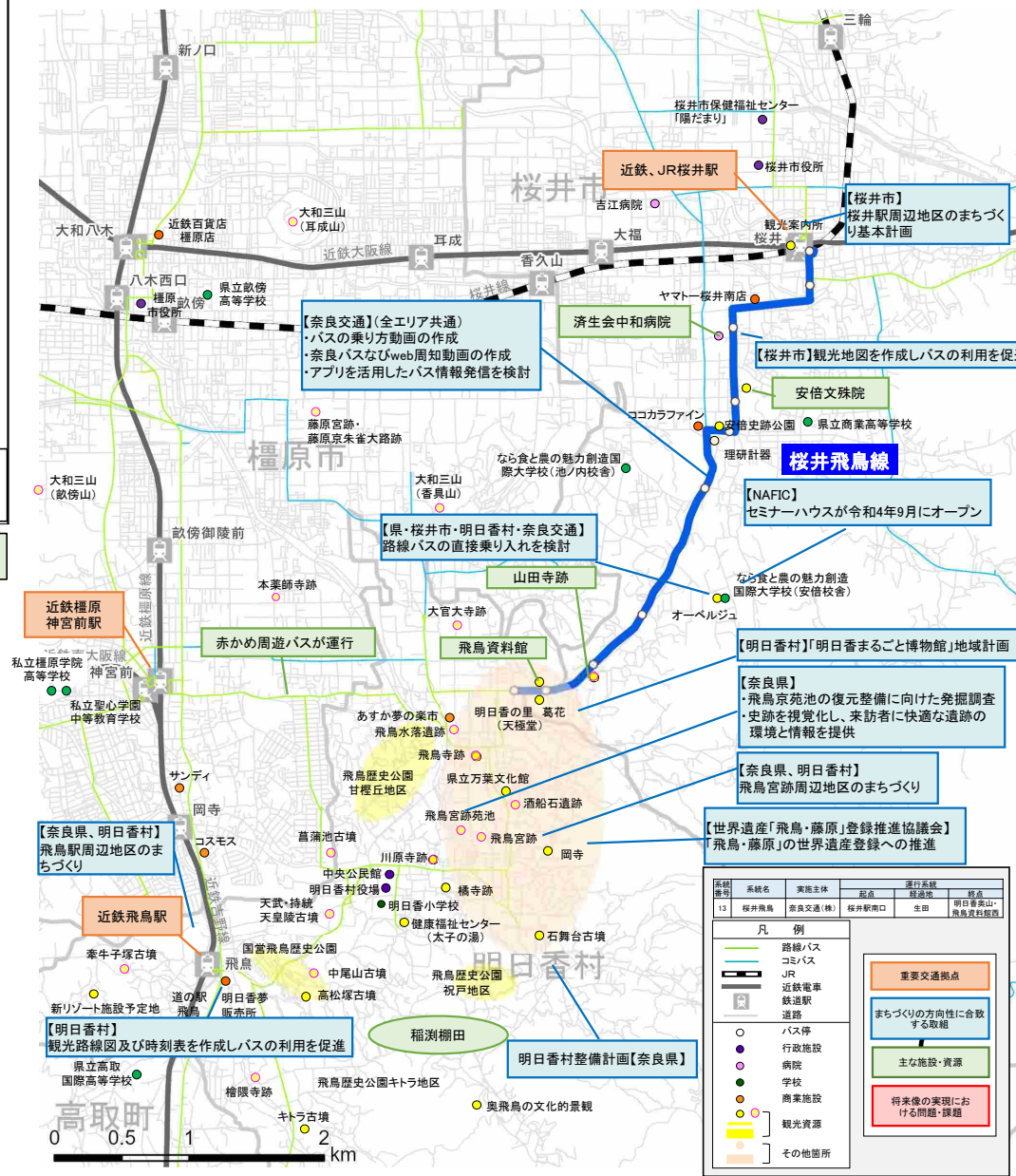
- 住民のニーズ把握とそのニーズに応じた交通モードの導入
- 通院・通学需要の公共交通利用への取込

—観光客向け—

【目標】公共交通を利用した周遊観光のための取組実施

- 既存のコミュニティバスや周辺施設等と連携したにぎわい創出の取組検討
- 公共交通の利用に繋がる観光イベントの企画・発信を強化

まちづくりの方向性(イメージ図)



【出典】国土数値情報(バスルート、バス停留所、鉄道、行政区域データ)。(国土交通省)を加工して作成。「地理院地図Vector(仮称)提供実験」(国土地理院)のデータをもとに、コンソーシアムGISコンソーシアムが作成したデータ(道路中心線2020)を表示。

バスカルテ	1便あたり利用者数		平均乗車密度		最大乗車人員		収支率		利用者一人あたりの行政負担額		
	【基準】3人以上	○	【基準】2人以上	○	【基準】10人以上	○	【基準】40%以上	○	【基準】2,000円以下	○	
桜井飛鳥線	令和6年度	3.6	○	2.6	○	15	○	42.8	○	450	○
	令和5年度	4.6	○	2.5	○	19	○	44.5	○	359	○

住民向けの取組

取組名	済生会中和病院への通院需要の取り込み
取組内容	・朝の通院時間と運行ダイヤを調整し、通院需要の取り込みができるような仕組みを検討・実施
実施主体・協力主体	桜井市、明日香村、奈良交通
実施効果	バス利用者増加
実施期間	R5.4～

取組名	通勤、通学需要の取り込み
取組内容	・朝の桜井駅方面の通勤・通学利用者の移動ニーズに基づく公共交通を利用しやすい仕組み作りの検討
実施主体・協力主体	桜井市、奈良県、奈良交通
実施効果	バス利用者増加
実施期間	R5.4～

取組名	交通事業者と市関係施設が連携した公共交通利用促進
取組内容	・市関係施設との連携による公共交通利用促進のイベント等を検討・実施
実施主体・協力主体	桜井市、奈良県、交通事業者
実施効果	公共交通利用者の増加、施設利用者の増加
実施期間	R5.4～

取組名	住民・来訪者双方が使えるデマンド交通の運行事業
取組内容	・点在する世界遺産構成遺産候補、商業施設や観光施設など交通手段が乏しく移動のサービスレベルが低い地域においてデマンド乗合交通を運行
実施主体・協力主体	明日香村、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	池之内地区の公共交通空白地解消
取組内容	・公共交通の空白地である池之内地区の公共交通アクセスの確保を検討
実施主体・協力主体	桜井市、奈良県
実施効果	公共交通空白地解消
実施期間	R5.4～

取組名	コミュニティバスデータのGTFS化に伴うオープンデータ化及び住民への周知
取組内容	・令和4年度に県で整備したコミュニティバスデータのGTFSデータ化を活用し、各種検索サイトへのデータ提供や、住民へのPRの実施
実施主体・協力主体	桜井市、奈良県
実施効果	コミュニティバスの利用者増加
実施期間	R5.4～

取組名	自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の利用促進
取組内容	・令和5年3月より販売を開始している自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の普及のためのPRを実施 ・コミュニティバスに活用する取組を検討・実施
実施主体・協力主体	奈良交通
実施効果	バス利用者増加、それに伴う鉄道利用者増加
実施期間	R5.3～

観光客向けの取組

取組名	公共交通と観光地等が連携した公共交通アクセスの確保や利用の促進
取組内容	・県内外からの公共交通を利用する観光客に対する、観光地等と連携した観光プランを提供するとともに、にぎわい創出の取組を検討
実施主体・協力主体	桜井市、明日香村、奈良県、交通事業者
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	観光客向けモデルルートの作成
取組内容	・各観光施設等に公共交通で巡っていただくようなモデルルートの作成・周知
実施主体・協力主体	桜井市、明日香村、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	「飛鳥・藤原」の世界遺産登録を見込んだ取組
取組内容	・世界遺産登録を見込み、観光客の受け入れ体制の検討・実施および、周遊観光の検討・実施 ・自動車利用から公共交通利用への転換と桜井～明日香方面の移動円滑化を図るため、桜井駅周辺にパーク＆ライド駐車場の整備を検討・実施
実施主体・協力主体	桜井市、明日香村、奈良県、交通事業者
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	史跡・名勝飛鳥京跡苑池の整備と併せた公共交通利用促進の取組
取組内容	・公共交通利用促進を図るため、飛鳥京苑池の復元整備事業に合わせた、新たな観光イベントの取組と、デジタル技術等を活用した効果的な広報を検討・実施
実施主体・協力主体	明日香村、奈良県
実施効果	来訪者の増加
実施期間	R5.4～

路線・地域の概要

- **関係市町村**
橿原市、高取町、明日香村、大淀町
- **主な公共交通機関**
 - JR: 桜井線(万葉まほろば線) 和歌山線
 - 近鉄: 大阪線 橿原線 南大阪線 吉野線
 - 奈良交通: 飛鳥線 八木下市線
 - コミバス: 橿原市コミュニティバス、よどりバス(大淀町)
 - デマンド: あすかデマンド乗合交通(明日香村)、よどりタクシー(大淀町)
- **主な利用データ***
 - JR畝傍駅 乗車人員 569人/日(R5)
 - 大和八木駅 乗車人員 32,974人/日(R5)
 - 橿原神宮前駅 乗車人員 17,139人/日(R5)
 - 壺阪山駅 乗車人員 1,068人/日(R5)
 - 飛鳥駅 乗車人員 2,088人/日(R5)
 - 下市口駅 乗車人員 2,028人/日(R5)
 - 奈良交通飛鳥線: 診断指標5項目の達成(R4)
 - 奈良交通八木下市線: 5診断指標のうち、収支率が未達成(※H30以降6年連続)

- **関係情報**
 - 「飛鳥・藤原」世界文化遺産登録(R8年予定)※「石舞台古墳」を始めとする世界文化遺産構成資産候補が19箇所点在
 - 明日香村新庁舎が令和5年5月に開庁
 - 星野リゾートが宿泊施設開業予定
 - 飛鳥駅南側の見瀬池に「スーパーエバグリーン飛鳥店」が開業(R6.4月~)
 - 令和5年度及び6年度にキトラ古墳等を巡る自動運転バスの実証実験を実施
 - キトラ古墳壁画、高松塚古墳修復作業室公開
 - 牽牛子塚古墳が整備公開(R4.3月~)
 - 例年2~3月ごろに、「あすかいちご列車」(近鉄)、「あすかいちごバス」(奈良交通)を運行され、好評
 - 高取町では、11月「たかとり城まつり」に、多くの観光客が来訪
 - 稲淵の棚田は、日本の棚田百選、奥飛鳥の文化的景観に選定されている
 - 電車通学により下市口駅で乗降する小中学生が約270人/日おり、特に福神駅~下市口駅間の利用が多い
 - 「奈良世界遺産フリーきっぷ」「古代ロマン飛鳥日帰りきっぷ」(鉄道と路線バスがセットになったフリーきっぷ)を販売中
 - 高松塚古墳壁画の新しい保存展示施設が国営飛鳥歴史公園内にオープン予定(R11までに)
 - 畝傍・金橋駅前にシェアサイクルポート設置(R6~)
 - 橿原市内の桜井線の3駅(香久山駅・畝傍駅・金橋駅)に格闘ゲーム「ストリートファイター」に登場するキャラクターをデザインした駅名標を掲出(R6.12~)

※近鉄駅の場合は乗降人員を示している

- **令和9年度に目標とすべき状況(主な評価指標)**
 - 八木下市線: 診断指標5項目の達成

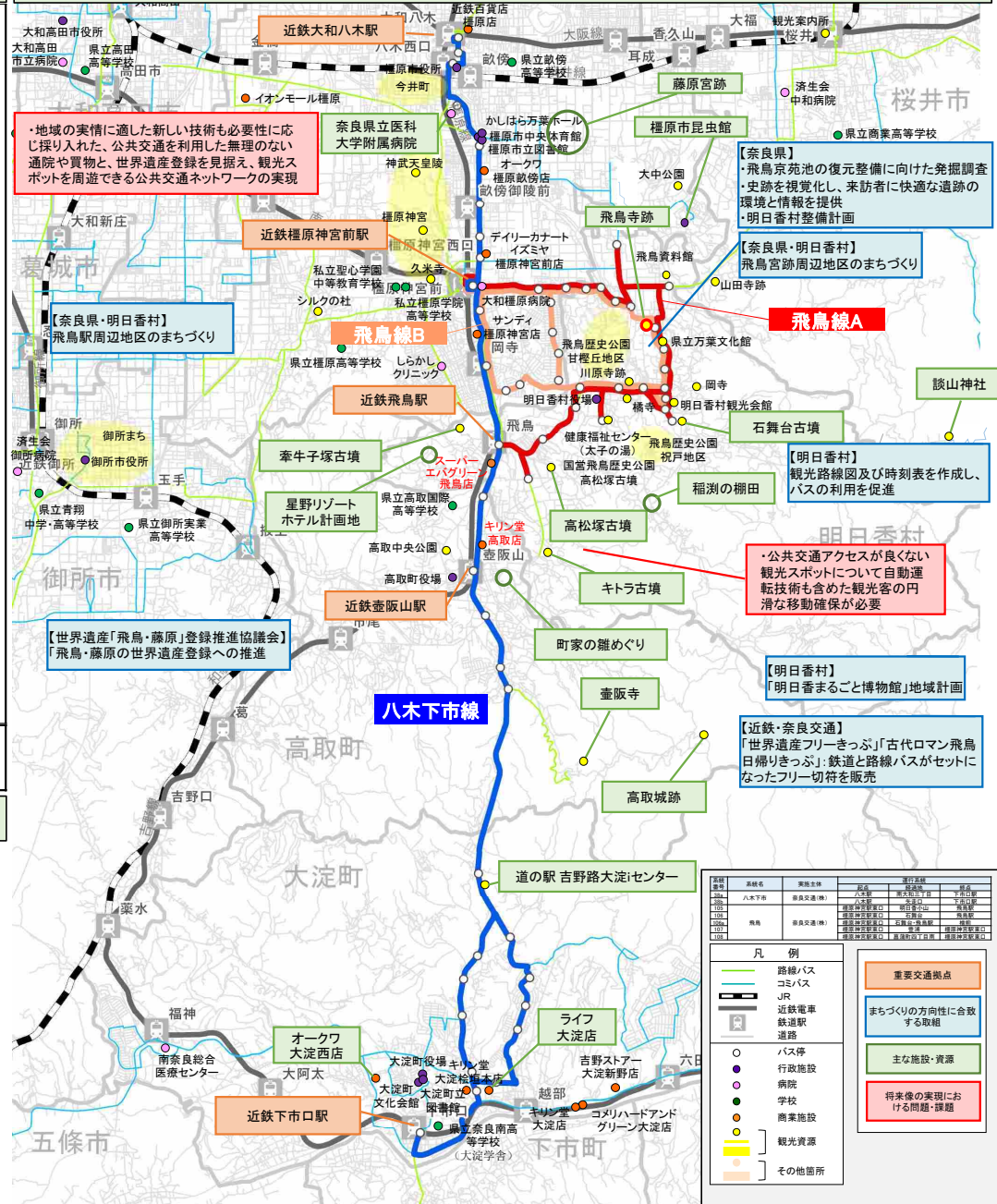
本エリアにおける公共交通の位置付けと課題

- 【位置付け】
 - 明日香周遊バス(赤かめ)は橿原神宮前駅から明日香村内主要施設等を経由し飛鳥駅までを周遊運行しており、生活の足としても重要
 - 近鉄吉野線は生活路線である一方、著名観光地である飛鳥・吉野方面への観光路線としても機能
- 【課題】
 - 自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある
 - 世界遺産登録を見据え、沿線に点在する観光地を公共交通で周遊できるネットワーク整備が必要
 - 明日香村役場新庁舎や星野リゾート等、新施設へのアクセス手段をどのように確保するか

取組の方向性

- 住民向け —
【目標】通院・買い物等、必要な用事を車がなくても便利に
 - 住民のニーズ把握とそのニーズに応じた交通モードの導入
 - デジタル技術等を活用した新たな交通サービスの検討
- 観光客向け —
【目標】公共交通を利用した周遊観光のための取組実施
 - 公共交通を活用した王道周遊ルート(ゴールデンルート)の組成・周知・浸透
 - デジタル技術等を活用した新たな交通サービスの検討

まちづくりの方向性(イメージ図)



【出典】「国土数値情報(バスルート、バス停留所、鉄道、行政区域データ)」(国土交通省)を加工して作成。「地理院地図Vector(仮称)提供実験」(国土地理院)のデータをもとに、コンサベーションGISコンソーシアムが作成したデータ(道路中心線2020)を表示。

バスルート	1便あたり利用者数		平均乗車密度		最大乗車人員		収支率		利用客1人あたり行政負担額		
	【基準】3人以上	【基準】2人以上	【基準】1.2人以上	【基準】1.0人以上	【基準】10人以上	【基準】40%以上	【基準】2,000円以下				
八木下市線	令和6年度	12.6	○	2.6	○	24	○	32.1	×	533	○
	令和5年度	12.6	○	2.6	○	28	○	33.8	×	509	○
飛鳥線A	令和6年度	14.7	○	5.2	○	23	○	64.6	○	43	○
	令和5年度	17.9	○	5.5	○	33	○	70.9	○	29	○
飛鳥線B	令和6年度	9.7	○	2.9	○	18	○	39.7	×	48	○
	令和5年度	20.0	○	2.9	○	14	○	40.8	○	53	○

: 重点取組事項

住民向けの取組

取組名	住民の超高齢化への対応と公共交通による世界遺産周遊を実現する公共交通ネットワークの構築
取組内容	・超高齢化社会等社会情勢の変化、新庁舎開庁に応じた、生活に必要な移動手段の確保 ・飛鳥駅周辺を拠点として、自動運転も含めた、各観光資産・施設を周遊出来る交通体系づくり
実施主体・協力主体	明日香村、奈良県
実施効果	公共交通利用者の増加、利便性の向上
実施期間	R4.12～

取組名	住民・来訪者双方が使えるデマンド交通の運行
取組内容	・点在する世界遺産構成遺産候補、商業施設や観光施設など交通手段が乏しく移動のサービスレベルが低い地域においてデマンド乗合交通を運行
実施主体・協力主体	明日香村、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R4.12～

取組名	周辺施設と連携した利用者インセンティブ施策や駅舎等の施設の利活用の実施
取組内容	・周辺施設と連携したインセンティブ施策や、駅舎等の利活用に向けた取組を検討・実施
実施主体・協力主体	沿線市町村、近畿日本鉄道、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	飛鳥駅への路線バス乗入れの検討
取組内容	・地域の玄関口である飛鳥駅の結節点機能強化として八木下市線の乗入れを検討
実施主体・協力主体	橿原市、高取町、明日香村、大淀町、奈良交通、奈良県
実施効果	利便性の向上、安全性の向上
実施期間	H28.4～

取組名	住民向けのモデルルートの作成・展開
取組内容	・病院、買い物にて公共交通の利用を促進するため、どの時間にバスに乗り、用事を済ませ、どの時間のバスに乗れば何時に帰宅できるといった住民向けのモデルコースを作成・展開
実施主体・協力主体	沿線市町村、奈良県、奈良交通
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の利用促進
取組内容	・令和5年3月より販売を開始している自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の普及のためのPRを実施 ・コミュニティバスに活用する取組を検討・実施
実施主体・協力主体	奈良交通
実施効果	バス利用者増加、それに伴う鉄道利用者増加
実施期間	R5.3～

観光客向けの取組

取組名	観光客向けモデルルートの作成
取組内容	・国営飛鳥歴史公園を含む各観光施設等を公共交通で巡る観光モデルルートを作成・周知し、公共交通の利用者増加を図るとともに、快適な移動環境の提供を図る
実施主体・協力主体	沿線市町村、近畿日本鉄道、奈良交通、奈良県
実施効果	公共交通利用者の増加、利便性の向上
実施期間	R5.4～

取組名	「飛鳥・藤原」の世界遺産登録を見据えた取組検討
取組内容	・世界遺産登録を見据え、観光客の受け入れ体制の検討および、周遊観光の検討・実施 ・域内の自動車利用増大を抑えるため、転換と明日香方面の移動円滑化を図るため、パーク＆ライド駐車場の整備を検討・実施
実施主体・協力主体	沿線市町村、交通事業者、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	鉄道・バスフリーきっぷの課題分析と今後の取組検討・実施
取組内容	・鉄道・バスフリーきっぷの利用をさらに積み増すための課題分析と今後の取組について。検討・実施
実施主体・協力主体	明日香村、奈良交通、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	新たな小型モビリティ等による周遊性の拡充
取組内容	・村内を隅々まで快適に周遊できる環境づくりの検討
実施主体・協力主体	明日香村、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

○中部Bにおける重点取組事項について

○住民の超高齢化への対応と公共交通による世界遺産周遊を実現する公共交通ネットワークの構築

重点取組事項のねらい	地域の実情に適した新しい技術も必要性に応じ採り入れた、公共交通を利用した無理のない通院や買物と、世界遺産登録を見据え、観光スポットを周遊できる公共交通ネットワークの実現
実施効果	公共交通利用者の増加、利便性の向上
活用する支援制度	公共交通基本計画推進支援事業

		1年目(R5)	2年目(R6)	3年目(R7)～
実施内容		<ul style="list-style-type: none"> 交通事業者における中長期的な乗務員不足と地域の周遊需要に対応した、自動運転とデマンド交通の実証実験 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度実証結果等を踏まえた、翌年度以降明日香村及び周辺市町村で実施する施策の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 明日香村及び周辺市町村での施策実施
役割分担 (※1:実施主体)	奈良県	<ul style="list-style-type: none"> 主要観光拠点を結ぶ小型バスによる自動運転実証運行 住民・来訪者双方が使えるデマンド交通の実証運行の支援 	<ul style="list-style-type: none"> 先行事例や成功事例の提供、企画に対する支援、関係者間調整 	<ul style="list-style-type: none"> 先行事例や成功事例の提供、企画に対する支援、関係者間調整
	明日香村(、橿原市、高取町、大淀町)※1	<ul style="list-style-type: none"> 主要観光拠点を結ぶ小型バスによる自動運転実証運行 住民・来訪者双方が使えるデマンド交通の実証運行 近鉄飛鳥駅の拠点機能の強化(八木下市線乗入調整) 電動三輪車(側車付き軽二輪)による観光二次交通の実証実験の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度実証結果の交通ネットワークへのフィードバック検討 電動三輪車(側車付き軽二輪)による観光二次交通の導入検討 パークアンドライド等、明日香村及び周辺市町村(橿原市、高取町、大淀町)との調整を要する取組事項の実施に向けた検討 	<ul style="list-style-type: none"> パークアンドライド等、明日香村及び周辺市町村(橿原市、高取町、大淀町)との調整を要する取組事項の実施 ガイド付きグリーンスローモビリティの実証運行
	交通事業者	<ul style="list-style-type: none"> 主要観光拠点を結ぶ小型バスによる自動運転実証運行 住民・来訪者双方が使えるデマンド交通の実証運行 八木下市線の近鉄飛鳥駅前・道の駅飛鳥への乗入 利用データの整理・分析 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度実証結果の交通ネットワークへのフィードバック パークアンドライド等、明日香村及び周辺市町村(橿原市、高取町、大淀町)との調整を要する取組事項の実施に向けた検討 	<ul style="list-style-type: none"> パークアンドライド等、明日香村及び周辺市町村(橿原市、高取町、大淀町)との調整を要する取組事項の実施・協力 八木下市線の近鉄飛鳥駅前・道の駅飛鳥への乗入検討
関係する補助		<ul style="list-style-type: none"> 公共交通基本計画推進支援事業 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通基本計画推進支援事業 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通基本計画推進支援事業

路線・地域の概要

- **関係市町村**
 橿原市、御所市、高取町
- **主な公共交通機関**
 - ・JR 桜井線 和歌山線
 - ・近鉄 大阪線 南大阪線 吉野線 橿原線
 - ・奈良交通 八木御所線
 - ・コミュニティバス：橿原市コミュニティバス、ひまわり号(御所市)
- **主な利用データ※**
 - ・JR御所駅 乗車人員 **593人/日 (R5)**
 - ・JR掖上駅 乗車人員 **104人/日 (R5)**
 - ・近鉄御所駅 乗車人員 **2,585人/日 (R5)**
 - ・大和八木駅 乗車人員 **32,974人/日 (R5)**
 - ・橿原神宮前駅 乗車人員 **17,139人/日 (R5)**
 - ・奈良交通八木御所線：5診断指標のうち、収支率が未達成 (R2～)

※近鉄駅の場合は乗降人員を示している

- **関係情報**
 - ・御所ICに隣接する地域では、奈良県と協働で自立的な地域経済構造の構築を目指した産業集積地の整備を図っている
 - ・産業集積地を含めた御所IC付近のエリアを新たな工業区域ゾーンとして位置づけ、比較的大規模な製造業・物流業の立地を促進し、魅力的な雇用の場の創出に向けた産業基盤の構築を図っている
 - ・「橿原市地域公共交通計画」(R5.3月)に基づき各種施策を推進
 - ・御所まちの銭湯を中心としたまちづくり「GOSE SENTO HOTEL」がオープン (R4.10月)
 - ・JR御所駅に交流スペース「まちかど案内所」を整備 (R2.3月)
 - ・和歌山線五條駅、御所駅を着地とする日帰り旅行商品「駅プラン」発売 (R6年秋)
 - ・畝傍・金橋駅前にシェアサイクルポート設置 (R6～)
 - ・JR西日本の月刊情報誌(イベント・グルメ・旅情報等を掲載)「西Navi」10月号に御所市を特集
 - ・橿原市内の桜井線の3駅(香久山駅・畝傍駅・金橋駅)に格闘ゲーム「ストリートファイター」に登場するキャラクターをデザインした駅名標を掲出 (R6.12～)

- **令和9年度に目標とすべき状況(主な評価指標)**
 - ・八木御所線：診断指標5項目、計画輸送量15人以上の達成

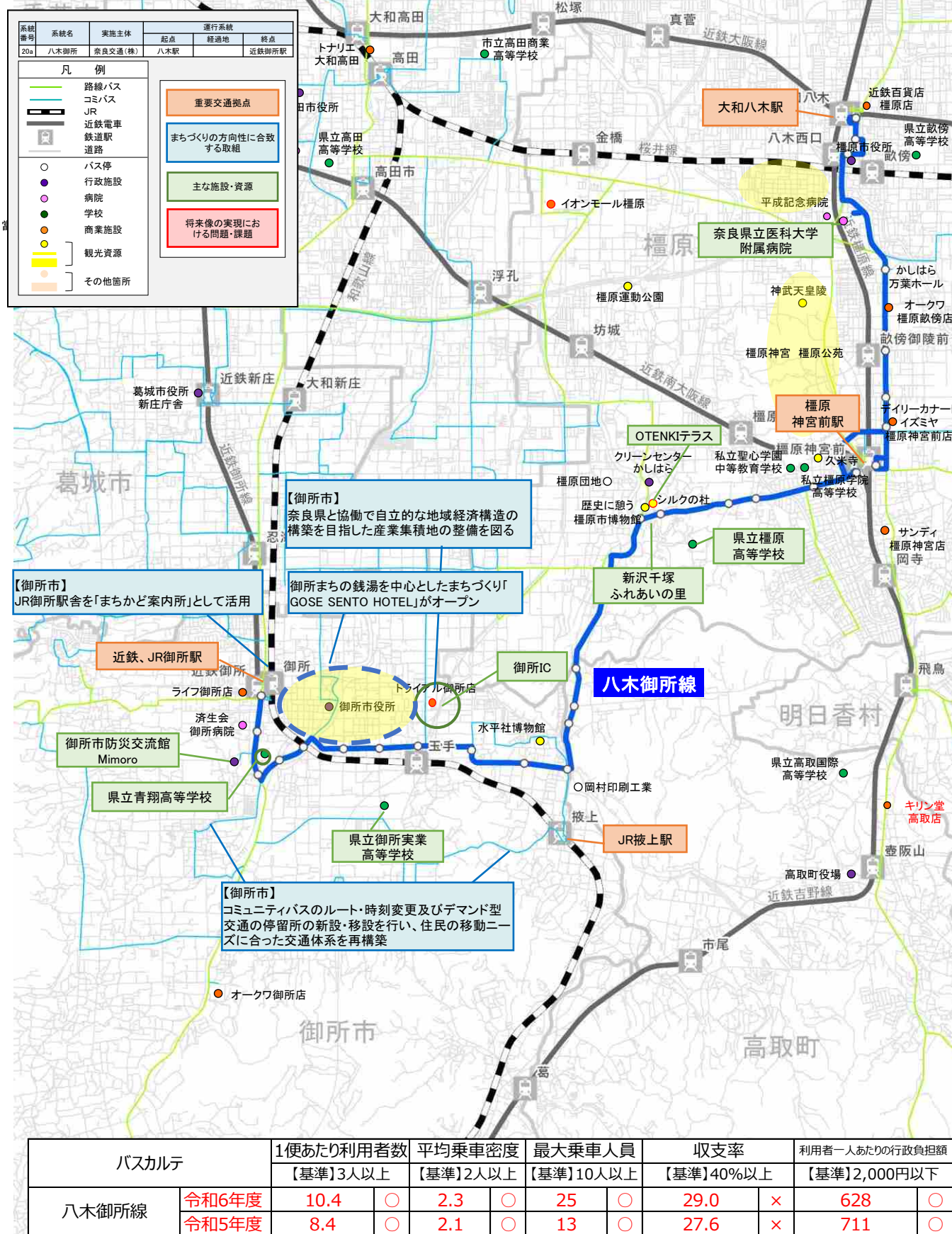
本エリアにおける公共交通の位置付けと課題

- 【位置付け】
 - 八木御所線沿線に4つの高等学校が立地している
 - 御所IC周辺では、産業集積地の整備を予定しており、企業立地による新たな通勤需要の発生が見込まれる
- 【課題】
 - 自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある
 - 企業立地にあわせて、公共交通の利用環境を整備する必要がある
 - 商業施設、病院等の利用者の大半が自家用車を利用しており、公共交通利用増に向け、移動手段の確保、各施設と連携した取組の検討が必要
 - 学生の公共交通利用促進増に向けどのような仕掛けを行うか

取組の方向性

- 住民向け —
 - 【目標】買い物・通院等、必要な用事を車がなくても便利に
 - 住民のニーズ把握とそのニーズに応じた交通モードの導入
 - 駅員が常駐しない駅を活用する取組を実施
 - 学生の公共交通利用促進に向けた取組の実施
- 観光客向け —
 - 【目標】公共交通を利用した観光のための取組実施
 - 滞在型観光者増に向けた観光イベントの企画・実施
 - デジタル技術活用による需要創出
- 現在誘致している御所IC周辺企業向け —
 - 【目標】公共交通を利用した通勤のための取組実施
 - 企業誘致事業と連携した公共交通利用促進の取組実施
 - 公共交通を利用した通勤のPR及びインセンティブ付与の検討

まちづくりの方向性(イメージ図)



【出典】「国土数値情報(バスルート、バス停留所、鉄道、行政区域データ)」(国土交通省)を加工して作成。「地理院地図Vector(仮称)提供実験」(国土地理院)のデータをもとに、コンソーシアムGISコンソーシアムが作成したデータ(道路中心線2020)を表示。

住民向けの取組

観光客向けの取組

取組名	近鉄・JR御所駅の交通拠点としての機能強化
取組内容	・近鉄・JR御所駅が一体となった駅前空間の整備や御所中心市街地地区のまちづくりを進め、交通拠点としての機能強化を検討・実施する
実施主体・協力主体	御所市、奈良県、交通事業者
実施効果	鉄道駅の交通拠点機能強化
実施期間	R5.4～

取組名	JR御所駅及び掖上駅の活用
取組内容	・JR御所駅舎を、市が管理する「まちかど案内所」として引き続き活用 ・JR掖上駅についても同様に、駅舎改良等による地域拠点としての活用を検討
実施主体・協力主体	御所市、奈良県
実施効果	地域公共交通の利便性の向上、地域活性化
実施期間	R6.4～

取組名	観光客向けモデルルート作成及び観光PRの実施
取組内容	・各観光施設等に公共交通で巡っていただくようなモデルルートの作成 ・デジタル技術等を活用した効果的な周知方法の検討・実施
実施主体・協力主体	橿原市、御所市、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	地域住民参画による移動手段の確保の検討
取組内容	・鉄道・バスによるカバー率の低い不便地区について、地域住民の主体的な取り組みを支援し、住民参画により検討を深め移動手段の確保を図る
実施主体・協力主体	橿原市、奈良県
実施効果	公共交通の利便性向上
実施期間	R5.4～

取組名	コミュニティバスデータのGTFS化に伴うオープンデータ化及び住民への周知
取組内容	・令和4年度に県で整備したコミュニティバスデータのGTFSデータ化を活用し、各種検索サイトへのデータ提供や、住民へのPRの実施
実施主体・協力主体	橿原市、御所市、奈良県
実施効果	コミュニティバスの利用者増加
実施期間	R5.4～

取組名	公共交通と観光分野が連携した観光イベントの企画・実施
取組内容	・滞在型観光者の増を図るため、公共交通と観光分野が連携して観光イベントの企画・実施
実施主体・協力主体	橿原市、御所市、高取町、奈良県、交通事業者
実施効果	公共交通を利用する滞在型観光者増
実施期間	R5.4～

取組名	移動ニーズに応じた公共交通モードの提供
取組内容	・商業施設、病院等の利用者の移動ニーズを調査し、ニーズに応じた公共交通モードを検討し、自家用車から公共交通利用への転換を図る
実施主体・協力主体	橿原市、御所市、高取町、奈良県
実施効果	公共交通の利便性向上
実施期間	R4.4～

取組名	公共交通利用促進策の実施
取組内容	・公共交通の利用促進を促す施策を検討・改善・実施
実施主体・協力主体	橿原市、御所市、奈良県
実施効果	公共交通利用者増
実施期間	R5.10～

誘致している御所IC周辺企業向けの取組

取組名	企業誘致事業と連携した公共交通利用促進
取組内容	・企業誘致担当部局と連携し、通勤需要を取り込めるような取組の検討・実施
実施主体・協力主体	御所市、奈良県、奈良交通
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R6.4～

取組名	自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の利用促進
取組内容	・令和5年3月より販売を開始している自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の普及のためのPRを実施 ・コミュニティバスに活用する取組を検討・実施
実施主体・協力主体	奈良交通、橿原市、御所市
実施効果	バス利用者増加、それに伴う鉄道利用者増加
実施期間	R5.3～

取組名	停留所方式のデマンド交通の導入
取組内容	・集落が点在している市南部の公共交通手段を確保するため、利便性の高い停留所方式のデマンド交通を導入
実施主体・協力主体	御所市、奈良県
実施効果	公共交通の利便性向上
実施期間	(実証運行)R5.1～R7.3 (本格運行)R7.4～